

陸前高田市まちづくりプラットフォーム

# 2014 年度 支援概況マッピング 活動履歴・アンケート 集計結果

2015 年 8 月

集計・作成：陸前高田市まちづくりプラットフォーム事務局

## ■ 支援概況マッピング 活動履歴フォーム・アンケート集計結果

陸前高田市まちづくりプラットフォーム（旧・陸前高田市ネットワーク連絡会）では、2011年度、2012年度、そして2013年度と、登録団体を対象に、市内の支援活動における「いつ」「どこで」「だれが」「どんなことを」「どうやって」行っているか、その状況を把握するための支援概況調査（マッピング）を実施してきました。

2014年度は、2013年度の調査を踏襲し、地域別／分野別の割合に加えて、支援実施にいたる背景、支援提供時（事業実施時）の連携の有無と内容、支援内容の収束または内容切替えの動向や、活動が地域にもたらした変化などについても、アンケートを通じた状況把握を試みています。本年度は38団体（活動履歴のみ回答、アンケートのみ回答の団体含む）の会員登録団体の協力のもと、本資料を作成することができました。心より感謝申し上げます。

以下に調査概況・集計結果・アンケート結果をまとめましたので、ご高覧頂けますと幸いです。今回の調査結果が、陸前高田市の復興・まちづくりの一助となりますことを切に願っております。

（ご留意いただきたいこと）

- ・ 本調査は、陸前高田市まちづくりプラットフォーム会員登録団体からの回答をもとに集計を行っています。陸前高田市における支援の「すべて」を「完全に」網羅しているものではございませんので、傾向としてご高覧下さい。
- ・ 活動内容別割合の円グラフについて、グラフ内の数値合計が100に満たない、または超える箇所がございます。また、数値があっても0.0%と表示される箇所がございますが、円グラフ作成の仕様（パーセンテージの数値四捨五入）につき、あらかじめご承知おき下さい。
- ・ 集計内容に関するお問い合わせにつきましては、陸前高田市まちづくりプラットフォーム事務局までお願いいたします。なお、団体情報保護の観点から、詳細についてご回答いたしかねる場合がございます。

（お問い合わせ先）

陸前高田市まちづくりプラットフォーム 事務局

メール（推奨）：rtmachip@gmail.com

電話：0192-47-4776（日祝休）

## ■ 支援カテゴリ

・それぞれの支援カテゴリの定義は、以下の通りです（全 21 カテゴリ＋その他）。

項目名	内容
物資配布	物資の配布。配布そのものが目的の場合に限る。（例：衣料品、食料品、生活用品、暖房器具等）
炊出し	飲食物の炊き出し
保健・医療	疾病の予防を目的として行われるサービス・事業（健康予防、健康増進、体調管理など）、および医療行為（身体・精神）
福祉	保健医療サービスを補うために行なわれるサービス（例：病院移送、ケアセンター、訪問介護）
子育て	未就学児の「保育」や預かり、母子保健に関する支援・相談・環境整備（例：託児所、地域子育て支援拠点、母子健康相談、子育て講座）
教育	就学児の学校教育、教育に関する公的機関が協働（主催・共催）している事業、部活動など、学校の枠組みで行われる事業への支援 （例：各教育機関、夜間教育支援事業、部活動バス代や備品の支援）
子ども全般	準学校教育（社会教育・野外活動）、子どもの年齢横断的なネットワーク （例：放課後学童クラブ、発達障がいのサポート、キャンプ活動、図書館、集会所での居場所活動）
住環境整備	仮設住宅まわりの設備・環境支援（屋根・柵・スロープの設置等）
法律	法律相談、法律説明会、その他生活再建に関する専門家相談、窓口の開設、法律勉強会、個別相談会の実施、被災者向け支援制度の利用促進活動等
女性支援	女性の自立支援、雇用促進、男女共同参画の推進
雇用・生業支援	就職のための実践的なノウハウやアドバイス、人材派遣・教育、事業再建支援、失業者の就職支援、就業のための技術講習・情報提供
収入創出	手仕事・起業支援等、スモールビジネスの実施・協働、企画・販路開拓
産業全般	産官学マッチング、産業分野横断的なネットワーク、産業全般に対するアドバイス
コミュニティづくり	趣味実用、生きがい・やりがいづくり（畑づくり等）、交流会・サロンの開催など
生活支援	主に「個別ニーズ」に基づいた視点での生活上での支援活動（個別ニーズの普遍化による支援/サービス提供も含む） （例：団体戸別見回り、物資支援、移動支援、足湯、傾聴）
キャパビル（講習・研修）	住民向けの講習・研修・勉強会等
情報	・住民に対する全般的な情報提供（例：新聞発行など） ・情報発信のお手伝い（情報の拡散・媒体への掲載）
場所貸し	市民活動のための場所の提供
ボランティア派遣	住民ニーズに基づくボランティア派遣活動
窓口・取次ぎ	住民向け窓口・相談対応や支援のマッチング（有識者・団体の紹介や、相談に応じた情報の提供など）
災害時要援護者支援	高齢者、障がい者、乳幼児、妊婦、傷病者、母語が日本語でない人など、災害時に自力で避難することが困難な人に特化した支援。（例：手話を使った避難誘導のレクチャー、在住外国人に避難関連表示の見方を教える活動など）
その他	上記以外のもの。

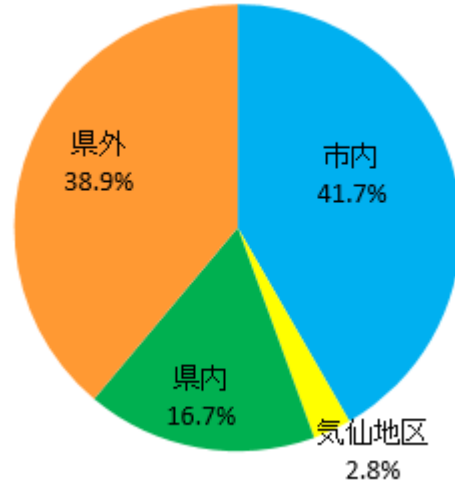
## ■ 調査概況

### 1. 活動履歴

・回答数 36 団体 (前年比 116%)

・回答団体内訳

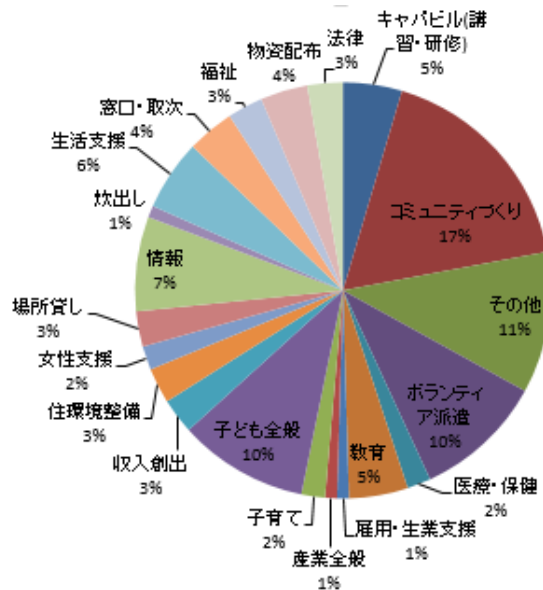
市内	15
気仙地区	1
県内	6
県外	14



・カテゴリ別内訳

(※団体が複数の支援カテゴリを選択している場合、カテゴリごとに1カウント)

物資配布 4%	収入創出 3%
炊出し 1%	産業全般 1%
医療・保健 2%	コミュニティづくり 17%
福祉 3%	生活支援 6%
子育て 2%	キャバビル (講習・研修) 5%
教育 5%	情報 7%
子ども全般 10%	場所貸し 3%
住環境整備 3%	ボランティア派遣 10%
法律 3%	窓口・取次 4%
女性支援 2%	その他 11%
雇用・生業支援 1%	

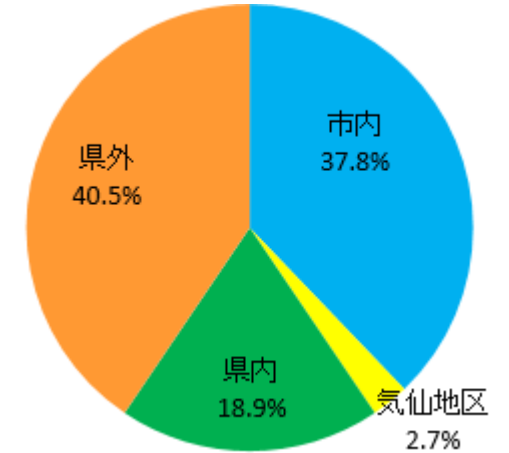


### 2. アンケート

・回答数 37 団体 (前年比 90%)

・回答団体内訳

市内	14
気仙地区	1
県内	7
県外	15



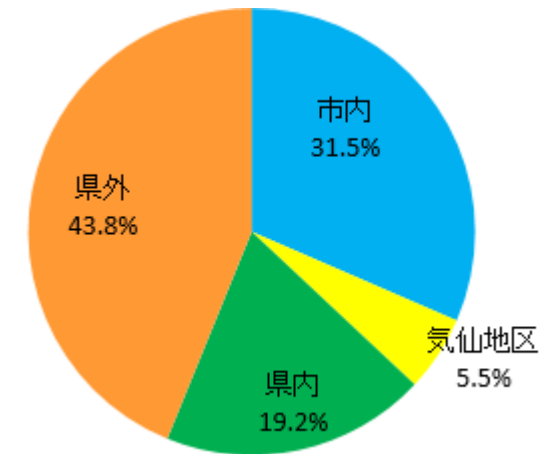
<参考>

陸前高田市まちづくりプラットフォーム

2013 年度登録団体数 73 団体

・団体内訳

市内	23
気仙地区	4
県内	14
県外	32





# 2015年度 陸前高田市支援概況マッピング 支援団体分布図

107

<横田町>活動団体	活動分野
遠野まごころネット	【子全般】
まあむたかた	【コミュ】【法】
陸前高田市仮設住宅連絡会	【コミュ】【情】【他】
いわて生活協同組合	【炊】
ReVA復興ボランティア チーム・上尾	【住】【コミュ】
遠野山・里・暮らし ネットワーク	【収】【コミュ】【生活】
神戸大学東北ボランティア バスプロジェクト	【生活】
セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン	【物】【子全般】 【キャパ】【他】
いわて三陸ひまわり基金 法律事務所	【法】
ハマトラ横浜フットボールネット ワーク	【コミュ】【他】
陸前高田市社会福祉協議会 教育支援チーム「まつ」	【コミュ】 【物】

<竹駒町>活動団体	活動分野
遠野まごころネット	【子全般】【コミュ】【ボラ】
パクト	【物】
まあむたかた	【女】【法】【コミュ】
陸前高田市仮設住宅連絡会	【コミュ】【情】【他】
いわて生活協同組合	【炊】
ReVA復興ボランティア チーム・上尾	【住】
遠野山・里・暮らしネットワーク	【コミュ】【生活】【ボラ】
シャンティ国際ボランティア会	【他】
神戸大学東北ボランティアバス プロジェクト	【生活】
セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン	【物】
国境なき子どもたち	【子全般】【コミュ】
コープあいち	【炊】【他】
早稲田大学平山郁夫記念 ボランティアセンター	【生活】
いわて三陸ひまわり基金 法律事務所	【法】
陸前高田市社会福祉協議会 もっちいと森の仲間たち	【コミュ】 【物】

<米崎町>活動団体	活動分野
遠野まごころネット	【子全般】【ボラ】
パクト	【物】
まあむたかた	【法】【キャパ】
再生の里ヤルキタウン	【子全般】【コミュ】【場】
桜ライン311	【教】
陸前高田市保健医療福祉 未来図会議	【医・保】
陸前高田市仮設住宅連絡会	【コミュ】【情】【他】
いわて生活協同組合	【炊】
遠野山・里・暮らしネットワーク	【収】【コミュ】【生活】 【ボラ】
神戸大学東北ボランティア バスプロジェクト	【子全般】【生活】
セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン	【物】【子全般】【キャパ】 【他】
早稲田大学平山郁夫記念 ボランティアセンター	【教】【コミュ】
いわて三陸ひまわり基金 法律事務所	【法】
陸前高田市社会福祉協議会 教育支援チーム「まつ」	【コミュ】 【物】【教】
子どもグリーンサポート ステーション	【子全般】
もっちいと森の仲間たち	【他】

<小友町>活動団体	活動分野
遠野まごころネット	【ボラ】
陸前たがだ八起プロジェクト	【住】【コミュ】【窓・取】
パクト	【物】【子全般】
まあむたかた	【法】【コミュ】【キャパ】
桜ライン311	【教】
陸前高田市仮設住宅連絡会	【コミュ】【情】【他】
いわて生活協同組合	【炊】
ReVA復興ボランティアチーム・ 上尾	【住】【雇・生】【コミュ】 【生活】
遠野山・里・暮らしネットワーク	【収】【コミュ】【生活】 【ボラ】
シャンティ国際ボランティア会	【他】
神戸大学東北ボランティア バスプロジェクト	【生活】
いわて三陸ひまわり基金 法律事務所	【法】
陸前高田市社会福祉協議会 前田建設工業株式会社	【コミュ】 【ボラ】
教育支援チーム「まつ」	【物】【コミュ】
もっちいと森の仲間たち	【他】

<矢作町>活動団体	活動分野
パクト	【物】【子全般】
まあむたかた	【法】
陸前高田市仮設住宅連絡会	【コミュ】【情】【他】
いわて生活協同組合	【炊】
遠野山・里・暮らし ネットワーク	【収】【コミュ】 【生活】【ボラ】
神戸大学東北ボランティア バスプロジェクト	【生活】
セーブ・ザ・チルドレン・ ジャパン	【物】
いわて三陸ひまわり基金 法律事務所	【法】
陸前高田市社会福祉協議会 教育支援チーム「まつ」	【コミュ】 【物】
もっちいと森の仲間たち	【他】

<気仙町>活動団体	活動分野
遠野まごころネット	【子全般】
パクト	【物】【子全般】
にじのライブラリー	【子全般】【収】【コミュ】
まあむたかた	【法】【コミュ】
陸前高田市仮設住宅連絡会	【コミュ】【情】【他】
いわて生活協同組合	【炊】
ReVA復興ボランティア チーム・上尾	【コミュ】【他】
遠野山・里・暮らし ネットワーク	【収】【コミュ】【生活】
神戸大学東北ボランティア バスプロジェクト	【生活】
セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン	【物】【子全般】【キャパ】 【他】
国境なき子どもたち	【子全般】
いわて三陸ひまわり基金 法律事務所	【法】
陸前高田市社会福祉協議会 教育支援チーム「まつ」	【コミュ】 【物】
もっちいと森の仲間たち	【物】

<高田町>活動団体	活動分野
遠野まごころネット	【子全般】【ボラ】
パクト	【子全般】
まあむたかた	【法】【女】【キャパ】
陸前高田市仮設住宅連絡会	【コミュ】【情】【他】
いわて生活協同組合	【他】
ReVA復興ボランティアチーム・ 上尾	【収】【他】
遠野山・里・暮らしネットワーク	【収】【コミュ】【生活】【ボ ラ】
シャンティ国際ボランティア会	【他】
神戸大学東北ボランティア バスプロジェクト	【子全般】【生活】【キャ パ】【他】
セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン	【物】【子全般】【キャパ】 【他】
国境なき子どもたち	【子全般】
コープあいち	【コミュ】
早稲田大学平山郁夫記念 ボランティアセンター	【教】【生活】
いわて三陸ひまわり基金 法律事務所	【法】
陸前高田市社会福祉協議会 前田建設工業株式会社	【コミュ】 【コミュ】
教育支援チーム「まつ」	【物】
高田大隅つどいの丘商店街	【教】【産】【コミュ】

<広田町>活動団体	活動分野
パクト	【物】【子全般】
まあむたかた	【法】【コミュ】
陸前高田市仮設住宅連絡会	【コミュ】【情】【他】
遠野山・里・暮らしネットワーク	【コミュ】【生活】【ボラ】
シャンティ国際ボランティア会	【他】
神戸大学東北ボランティア バスプロジェクト	【生活】
セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン	【物】【キャパ】【他】
国境なき子どもたち	【子全般】
いわて三陸ひまわり基金 法律事務所	【法】
陸前高田市社会福祉協議会 教育支援チーム「まつ」	【コミュ】 【物】
もっちいと森の仲間たち	【物】



# 2015年度 陸前高田市支援概況マッピング 支援団体分布図

## 活動履歴・アンケート提出団体一覧

いわて三陸ひまわり基金法律事務所  
 いわて生活協同組合（いわて生協）  
 特定非営利活動法人 いわて発達障害サポートセンターええ町づくり隊高田支部さぽーとはうす★すてっぷ  
 特定非営利活動法人 いわて連携復興センター  
 社会福祉法人 奥州市社会福祉協議会（奥州市沿岸支援隊）  
 大船渡地区被災者相談支援センター（岩手県沿岸広域振興局経営企画部大船渡地区地域振興センター）  
 特定非営利活動法人 かながわ311ネットワーク  
 株式会社 リコー  
 岩大E\_code  
 教育支援チーム「まつ」  
 神戸大学東北ボランティアバスプロジェクト  
 認定特定非営利活動法人 国境なき子どもたち（KnK）  
 特定非営利活動法人 子どもグリーンサポートステーション  
 特定非営利活動法人 再生の里ヤルキタウン  
 特定非営利活動法人 桜ライン311  
 特定非営利活動法人 ジャパン・プラットフォーム  
 公益社団法人 シャンティ国際ボランティア会  
 生活協同組合コープあいち  
 公益社団法人 セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン  
 一般社団法人 SAVE TAKATA  
 高田大隅つどいの丘商店街  
 特定非営利活動法人 遠野まごころネット  
 特定非営利活動法人 遠野山・里・暮らしネットワーク  
 特定非営利活動法人 難民支援協会  
 にじのライブラリー  
 特定非営利活動法人 パクト  
 特定非営利活動法人 ハマトラ 横浜フットボールネットワーク  
 特定非営利活動法人 まあむたかた  
 前田建設工業株式会社  
 もっちいと森の仲間たち  
 ReVA復興ボランティアチーム・上尾  
 陸前高田市仮設住宅連絡会  
 社会福祉法人 陸前高田市社会福祉協議会  
 陸前高田市保健医療福祉未来図会議（通称：未来図会議）  
 特定非営利活動法人 陸前たがだ八起プロジェクト  
 陸前高田まちづくり協働センター（特定非営利活動法人 レスパイトハウス・ハンズ）  
 6大学支援ネットワーク：陸前高田地域再生支援研究プロジェクト  
 早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター

計38団体

＜住田町＞活動団体	活動分野
まあむたかた	【法】
陸前高田市仮設住宅連絡会	【情】【他】

＜市内全域＞活動団体	活動分野
難民支援協会	【他】
パクト	【ボラ】【他】
まあむたかた	【女】【コミュ】【キャパ】
保健医療福祉未来図会議	【医・保】
陸前高田まちづくり協働センター （レスパイトハウス・ハンズ）	【情】【場】【窓・取】
いわて連携復興センター	【キャパ】
岩大E_code	【コミュ】【情】
6大学支援ネットワーク	【他】
陸前高田市社会福祉協議会	【生活】【情】【ボラ】【窓・取】
大船渡地区被災者相談支援センター	【法】【生活】【情】
かながわ311ネットワーク	【ボラ】【他】
大船渡地区被災者相談支援センター	【法】【生活】【情】
奥州市社会福祉協議会 （奥州市沿岸支援隊）	【ボラ】
ジャパン・プラットフォーム	【他】

物資配布	【物】	収入創出	【収】
炊出し	【炊】	産業全般	【産業】
医療・保健	【医・保】	コミュニティづくり	【コミュ】
福祉	【福】	生活支援	【生活】
子育て	【子育て】	キャパビル （講習・研修）	【キャパ】
教育	【教】	情報	【情】
子ども全般	【子全般】	場所貸し	【場】
住環境整備	【住】	ボランティア派遣	【ボラ】
法律	【法】	窓口・取次	【窓・取】
女性支援	【女】	災害時要援護者支援	【要援】
雇用・生業支援	【雇・生】	その他	【他】

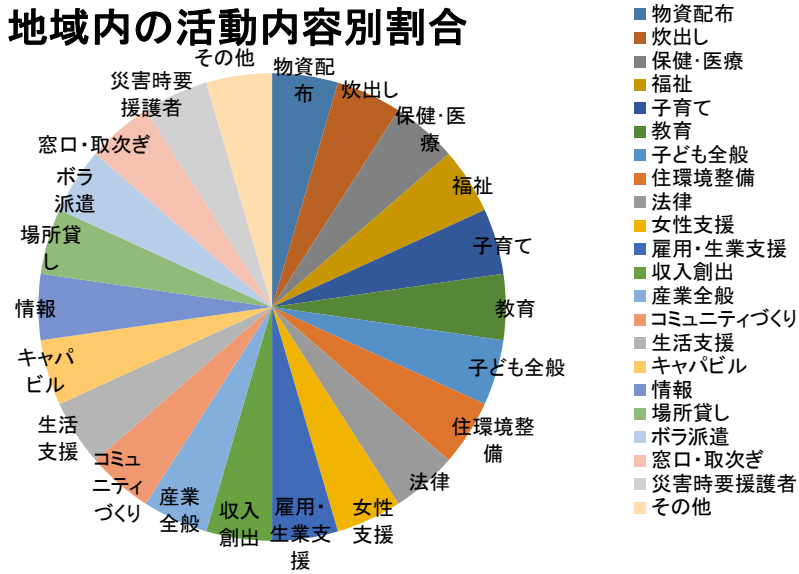
# 支援内訳

## 活動内容内訳

世帯数:	2131	支援回数:	10661	充足率:	世帯数/支援回数
------	------	-------	-------	------	----------

活動回数	割合	活動回数	割合
物資配布		収入創出	
炊出し		産業全般	
保健・医療		コミュニティづくり	
福祉		生活支援	
子育て		キャバピル	
教育		情報	
子ども全般		場所貸し	
住環境整備		ボランティア派遣	
法律		窓口・取次	
女性支援		災害時要援護者支援	
雇用・生業支援		その他	

## 地域内の活動内容別割合



## 仮設・場所別支援数比



活動団体	活動分野
団体名	団体が行っている活動

物資配布	【物】	収入創出	【収】
炊出し	【炊】	産業全般	【産業】
保健・医療	【医・保】	コミュニティづくり	【コミュ】
福祉	【福】	生活支援	【生活】
子育て	【子育て】	キャバピル(講習・研修)	【キャバ】
教育	【教育】	情報	【情】
子ども全般	【子全般】	場所貸し	【場】
住環境整備	【住】	ボランティア派遣	【ボラ】
法律	【法】	窓口・取次	【窓・取】
女性支援	【女】	災害時要援護者支援	【要援】
雇用・生業支援	【雇・生】	その他	【他】

補足事項:

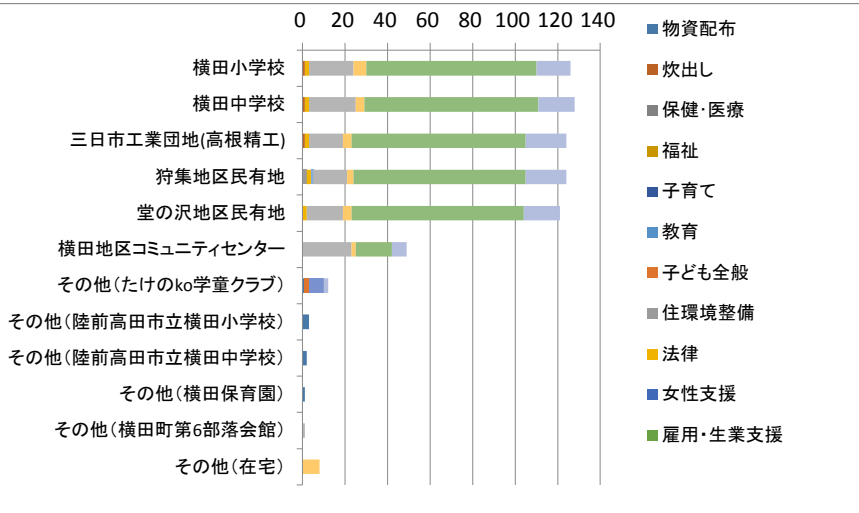
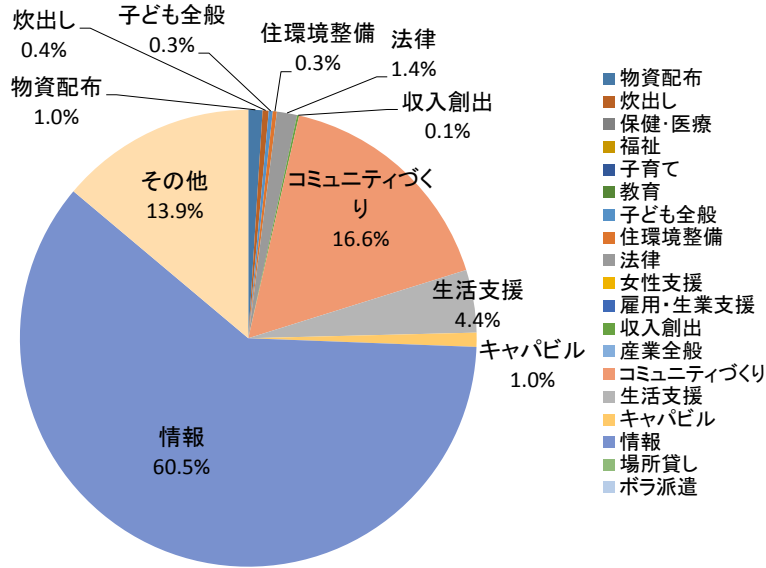
★は今回から支援に入った場所

※学校の敷地内にある仮設住宅は「〇〇学校」として表記されている。学校自体への場合はその他の欄に「陸前高田市立〇〇学校」と表記。



# 横田町支援内訳

横田町 世帯数:218 支援回数:698



## 活動内容内訳

世帯数:	218	支援回数:	699	充足率:	320.6%
物資配布	7	1.0%	収入創出	1	0.1%
炊出し	3	0.4%	産業全般	0	0.0%
保健・医療	0	0.0%	コミュニティづくり	116	16.6%
福祉	0	0.0%	生活支援	31	4.4%
子育て	0	0.0%	キャパビル	7	1.0%
教育	0	0.0%	情報	423	60.5%
子ども全般	2	0.3%	場所貸し	0	0.0%
住環境整備	2	0.3%	ボランティア派遣	0	0.0%
法律	10	1.4%	窓口・取次	0	0.0%
女性支援	0	0.0%	災害時要援護者支援	0	0.0%
雇用・生業支援	0	0.0%	その他	97	13.9%
		計	699		

横田町

活動団体	活動分野
遠野まごころネット	【子全般】
まあむたかた	【コミュ】【法】
陸前高田市仮設住宅連絡会	【コミュ】【情】【他】
いわて生活協同組合	【炊】
ReVA復興ボランティアチーム・上尾	【住】【コミュ】
遠野山・里・暮らしネットワーク	【取】【コミュ】【生活】
神戸大学東北ボランティアバスプロジェクト	【生活】
セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン	【物】【子全般】【キャパ】【他】
いわて三陸ひまわり基金法律事務所	【法】
ハマトラ横浜フットボールチーム	【コミュ】【他】
陸前高田市社会福祉協議会	【コミュ】
教育支援チーム「まつ」	【物】

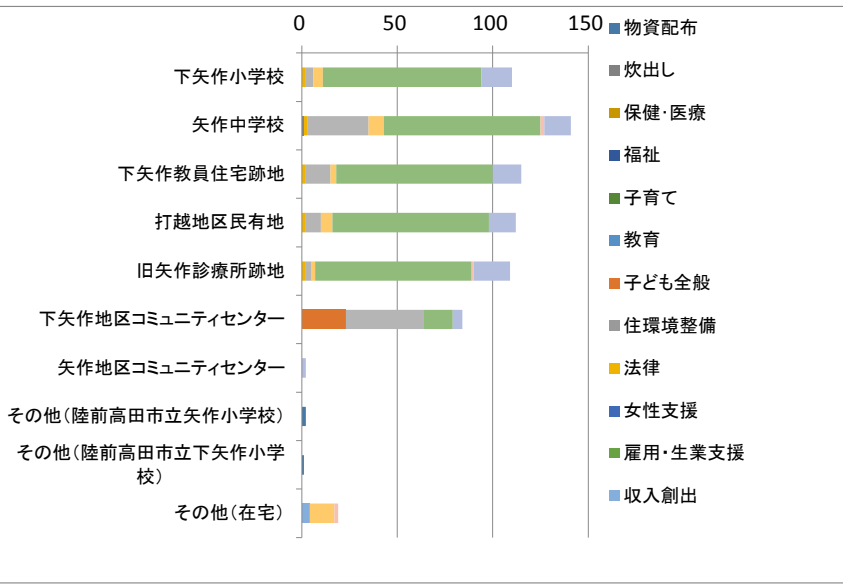
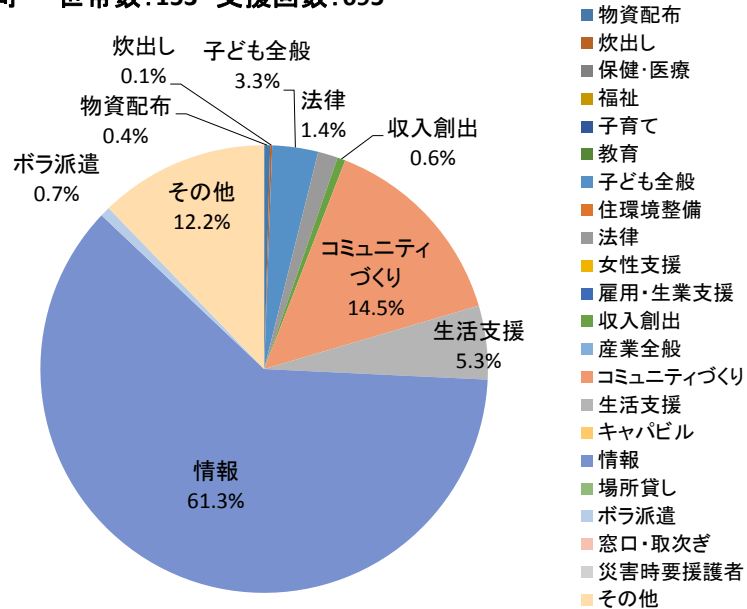
### 概況・補足事項:

- ・継続的に情報提供支援を行う団体が活動しているため、必然的に【情報】の割合が大きくなっている。次いで多いのが【コミュニティづくり】にかかわる活動。
- ・支援量は特定の仮設に偏らず、万遍なく活動されている傾向。
- ・在宅住民を対象とした活動は2014年度調査で初出。



# 矢作町支援内訳

矢作町 世帯数:153 支援回数:695



## 活動内容内訳

世帯数:	153	支援回数:	695	充足率:	454.2%
------	-----	-------	-----	------	--------

活動内容	回数	割合	活動内容	回数	割合
物資配布	3	0.4%	収入創出	4	0.6%
炊出し	1	0.1%	産業全般	0	0.0%
保健・医療	0	0.0%	コミュニティづくり	101	14.5%
福祉	0	0.0%	生活支援	37	5.3%
子育て	0	0.0%	キャパビル	0	0.0%
教育	0	0.0%	情報	426	61.3%
子ども全般	23	3.3%	場所貸し	0	0.0%
住環境整備	0	0.0%	ボランティア派遣	5	0.7%
法律	10	1.4%	窓口・取次	0	0.0%
女性支援	0	0.0%	災害時要援護者支援	0	0.0%
雇用・生業支援	0	0.0%	その他	85	12.2%

計 695

矢作町

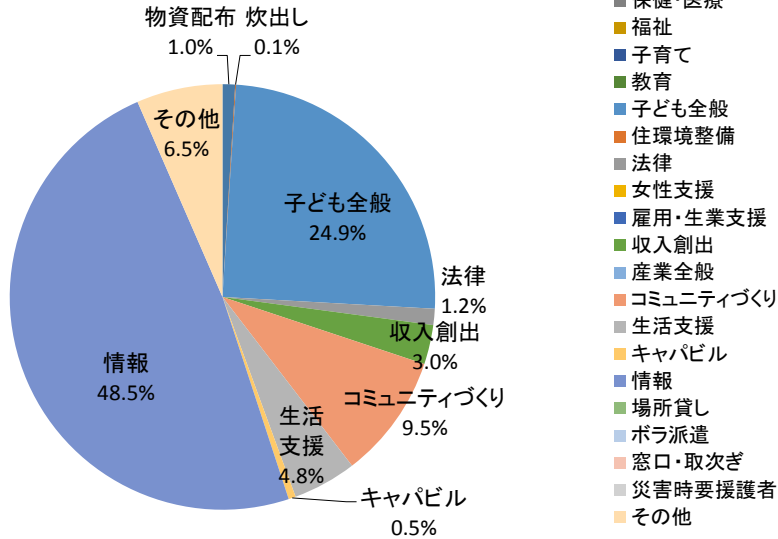
活動団体	活動分野
バクト	【物】【子全般】
まかむたかた	【法】
陸前高田市仮設住宅連絡会	【コミュ】【情】【他】
いわて生活協同組合	【炊】
遠野山・里・暮らしネットワーク	【収】【コミュ】【生活】【ボラ】
神戸大学東北ボランティアバスプロジェクト	【生活】
セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン	【物】
いわて三陸ひまわり基金法律事務所	【法】
陸前高田市社会福祉協議会	【コミュ】
教育支援チーム「まつ」	【物】
もっちいと森の仲間たち	【他】

### 補足事項:

- ・継続的に情報提供支援を行う団体が活動しているため、必然的に【情報】の割合が大きくなっている。次いで多いのが【コミュニティづくり】にかかわる活動。
- ・下矢作コミュニティセンターでの活動が多い。【子ども全般】にかかわる活動(みちくさルーム)やサロン活動等。
- ・在宅住民を対象とした活動は2014年度調査で初出。

# 気仙町支援内訳

気仙町 世帯数:194 支援回数:1468



活動内容内訳					
世帯数:	194	支援回数:	1468	充足率:	756.7%

物資配布	14	1.0%	収入創出	44	3.0%
炊出し	1	0.1%	産業全般	0	0.0%
保健・医療	0	0.0%	コミュニティづくり	139	9.5%
福祉	0	0.0%	生活支援	71	4.8%
子育て	0	0.0%	キャパビル	8	0.5%
教育	0	0.0%	情報	712	48.5%
子ども全般	365	24.9%	場所貸し	0	0.0%
住環境整備	0	0.0%	ボランティア派遣	0	0.0%
法律	18	1.2%	窓口・取次	0	0.0%
女性支援	0	0.0%	災害時要援護者支援	0	0.0%
雇用・生業支援	0	0.0%	その他	96	6.5%

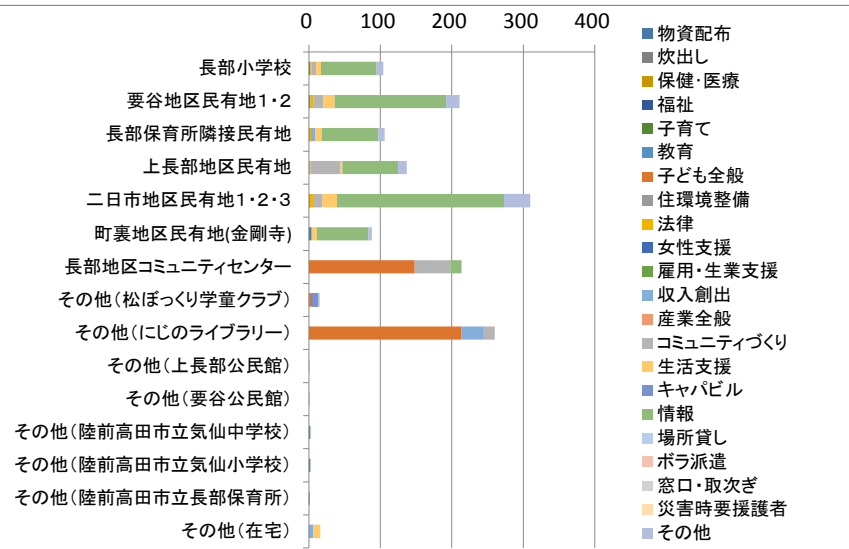
計 1468

気仙町

活動団体	活動分野
遠野まごころネット	【子全般】
バクト	【物】【子全般】
にじのライブラリー	【子全般】【収】【コミュ】
まあむたかた	【法】【コミュ】
陸前高田市仮設住宅連絡会	【コミュ】【情】【他】
いわて生活協同組合	【炊】
ReVA復興ボランティアチーム・上尾	【コミュ】【他】
遠野山・里・暮らしネットワーク	【収】【コミュ】【生活】
神戸大学東北ボランティアプロジェクト	【生活】
セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン	【物】【子全般】【キャパ】【他】
国境なき子どもたち	【子全般】
いわて三陸ひまわり基金法律事務所	【法】
陸前高田市社会福祉協議会	【コミュ】
教育支援チーム「まつ」	【物】
もっちゃん森の仲間たち	【物】

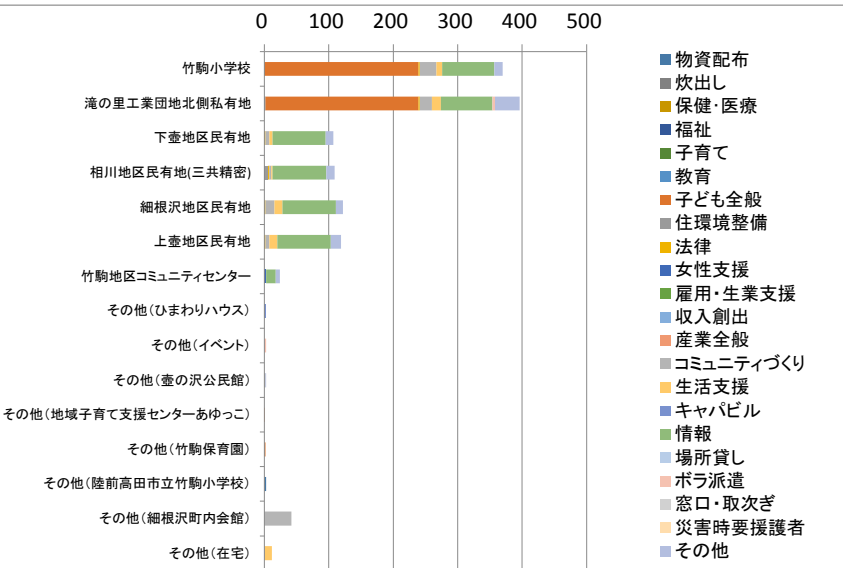
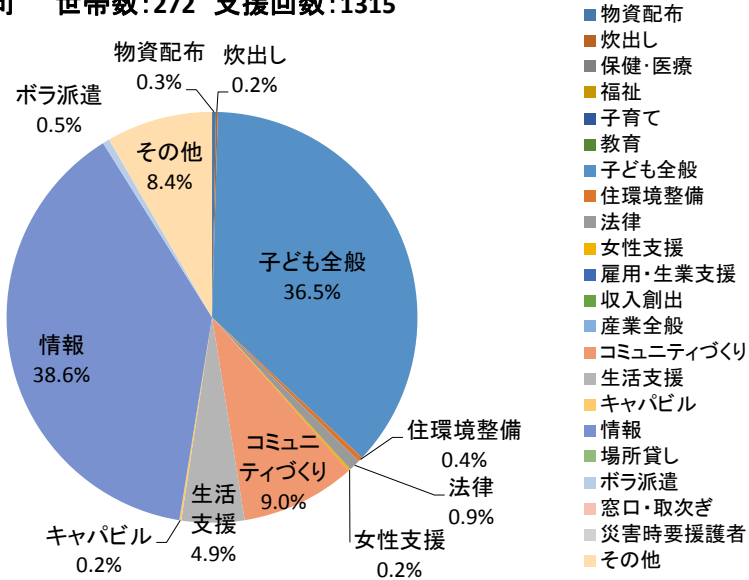
## 補足事項:

- ・継続的に情報提供支援を行う団体が活動しているため、必然的に【情報】の割合が大きくなっている。次いで多いのが【子ども全般】にかかわる活動(にじのライブラリー、みちくさルーム等)。
- ・コミュニティセンターの利用頻度が高い。【子ども全般】にかかわる活動(みちくさルーム)やサロン活動等。
- ・在宅住民を対象とした活動は2014年度調査で初出。



# 竹駒町支援内訳

竹駒町 世帯数:272 支援回数:1315



## 活動内容内訳

世帯数:	272	支援回数:	1315	充足率:	483.5%
------	-----	-------	------	------	--------

活動分野	回数	割合	活動分野	回数	割合
物資配布	4	0.3%	収入創出	0	0.0%
炊出し	2	0.2%	産業全般	0	0.0%
保健・医療	0	0.0%	コミュニティづくり	119	9.0%
福祉	0	0.0%	生活支援	65	4.9%
子育て	0	0.0%	キャパビル	2	0.2%
教育	0	0.0%	情報	507	38.6%
子ども全般	480	36.5%	場所貸し	0	0.0%
住環境整備	5	0.4%	ボランティア派遣	7	0.5%
法律	12	0.9%	窓口・取次	0	0.0%
女性支援	2	0.2%	災害時要援護者支援	0	0.0%
雇用・生業支援	0	0.0%	その他	110	8.4%

計 1315

## 竹駒町

活動団体	活動分野
遠野まごころネット	【子全般】【コミュ】【ボラ】
バクト	【物】
まあむたかた	【女】【法】【コミュ】
陸前高田市仮設住宅連絡会	【コミュ】【情】【他】
いわて生活協同組合	【炊】
ReVA復興ボランティアチーム・上尾	【住】
遠野山・里・暮らしネットワーク	【コミュ】【生活】【ボラ】
シャンティ国際ボランティア会	【他】
神戸大学東北ボランティアプロジェクト	【生活】
セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン	【物】
国境なき子どもたち	【子全般】【コミュ】
コープあいち	【炊】【他】
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター	【生活】
いわて三陸ひまわり基金法律事務所	【法】
陸前高田市社会福祉協議会	【コミュ】
もっちゃん森の仲間たち	【物】

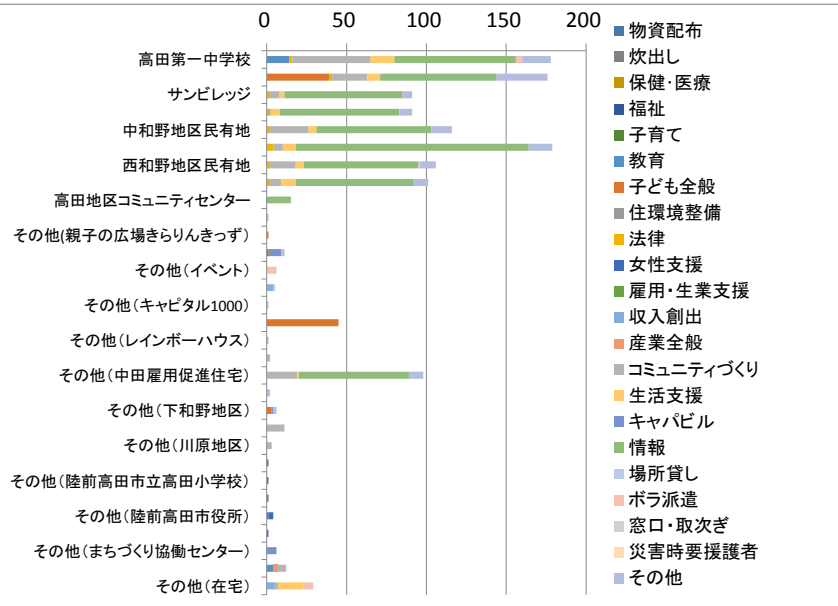
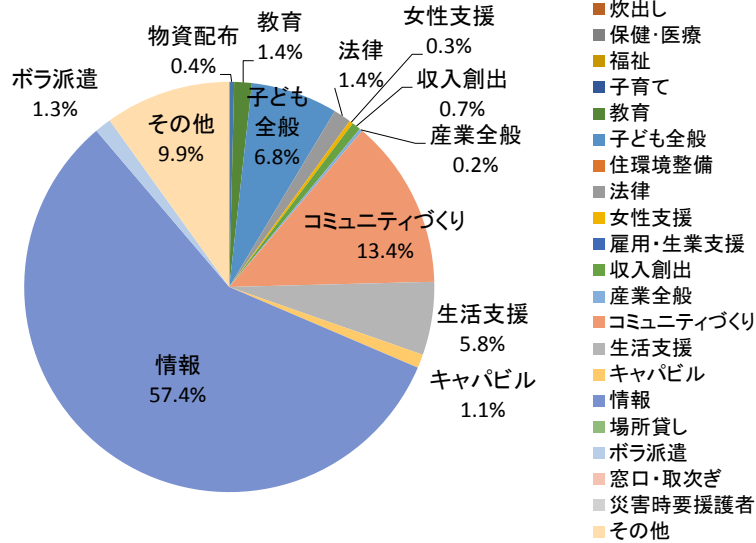
### 補足事項:

- ・【情報】、次いで【子ども全般】にかかわる活動が多い。
- ・竹駒小学校、滝の里工業団地で特に回数が多いのは、「走る子どもセンター」の活動頻度が高いため。
- ・コミュニティセンターを会場とした活動が少ない。
- ・在宅住民を対象とした活動は2014年度調査で初出。



# 高田町支援内訳

高田町 世帯数:573 支援回数:1300



## 活動内容内訳

世帯数:	573	支援回数:	1300	充足率:	226.9%
------	-----	-------	------	------	--------

活動内容	回数	割合	活動内容	回数	割合
物資配布	5	0.4%	収入創出	9	0.7%
炊出し	0	0.0%	産業全般	3	0.2%
保健・医療	0	0.0%	コミュニティづくり	173	13.3%
福祉	0	0.0%	生活支援	75	5.8%
子育て	0	0.0%	キャパビル	14	1.1%
教育	18	1.4%	情報	746	57.4%
子ども全般	89	6.8%	場所貸し	0	0.0%
住環境整備	0	0.0%	ボラ派遣	17	1.3%
産業全般	0	0.0%	窓口・取次	0	0.0%
コミュニティづくり	18	1.4%	災害時要援護者支援	0	0.0%
法律	18	1.4%	その他	129	9.9%
女性支援	4	0.3%			
雇用・生業支援	0	0.0%			

計 1300

### 高田町

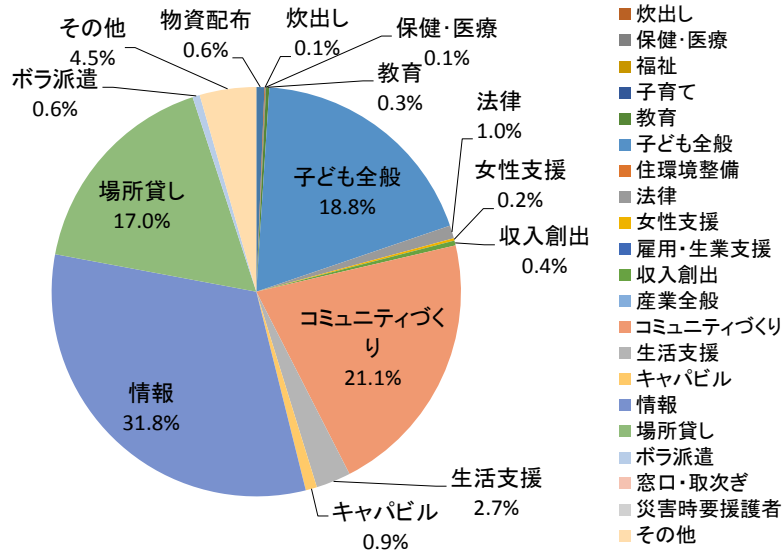
活動団体	活動分野
遠野まごころネット	【子全般】【ボラ】
バクト	【子全般】
まあむたかた	【法】【女】【キャパ】
陸前高田市仮設住宅連絡会	【コミュ】【情】【他】
いわて生活協同組合	【他】
ReVA復興ボランティアチーム・上尾	【収】【他】
遠野山・里・暮らしネットワーク	【収】【コミュ】【生活】【ボラ】
シャンティ国際ボランティア会	【他】
神戸大学東北ボランティアバスプロジェクト	【子全般】【生活】【キャパ】【他】
セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン	【物】【子全般】【キャパ】【他】
国境なき子どもたち	【子全般】
コープあいち	【コミュ】
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター	【教】【生活】
いわて三陸ひまわり基金法律事務所	【法】
陸前高田市社会福祉協議会	【コミュ】
前田建設工業株式会社	【コミュ】
教育支援チーム「まつ」	【物】
高田大隅つどいの丘商店街	【教】【産】【コミュ】

### 補足事項:

- ・継続的な情報提供支援を行う団体が活動しているため、【情報】の割合が大きくなっている。次いで多いのが【コミュニティづくり】。
- ・高田第一中学校、高田高校、大隅地区民有地で活動が多い。
- ・在宅住民を対象とした活動は2014年度調査で初出。

# 米崎町支援内訳

米崎町 世帯数:292 支援回数:1568



活動内容内訳					
世帯数:	292	支援回数:	1568	充足率:	537.0%

物資配布	10	0.6%	収入創出	6	0.4%
炊出し	1	0.1%	産業全般	0	0.0%
保健・医療	1	0.1%	コミュニティづくり	331	21.1%
福祉	0	0.0%	生活支援	43	2.7%
子育て	0	0.0%	キャパビル	14	0.9%
教育	4	0.3%	情報	499	31.8%
子ども全般	294	18.8%	場所貸し	267	17.0%
住環境整備	0	0.0%	ボランティア派遣	9	0.6%
法律	16	1.0%	窓口・取次	0	0.0%
女性支援	3	0.2%	災害時要援護者支援	0	0.0%
雇用・生業支援	0	0.0%	その他	70	4.5%

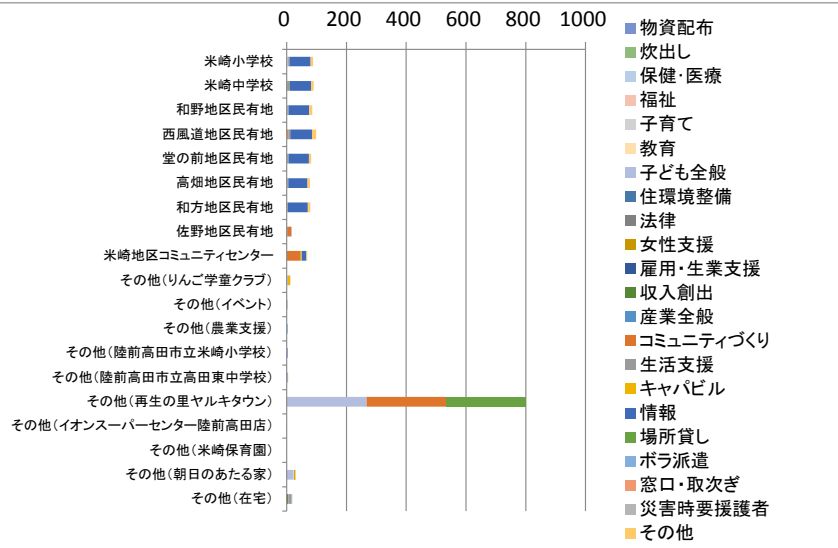
計 1568

米崎町

活動団体	活動分野
遠野まごころネット	【子全般】【ボラ】
バクト	【物】
まあむたかた	【法】【キャパ】
再生の里ヤルキタウン	【子全般】【コミュ】【場】
桜ライン311	【教】
陸前高田市保健医療福祉未来図会議	【医・保】
陸前高田市仮設住宅連絡会	【コミュ】【情】【他】
いわて生活協同組合	【炊】
遠野山・里・暮らしネットワーク	【収】【コミュ】【生活】【ボラ】
神戸大学東北ボランティアバス	【子全般】【生活】
セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン	【物】【子全般】【キャパ】【他】
早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター	【教】【コミュ】
いわて三陸ひまわり基金法律事務所	【法】
陸前高田市社会福祉協議会	【コミュ】
教育支援チーム「まつ」	【物】【教】
子どもグリーンサポートステーション	【子全般】
もっちゃんと森の仲間たち	【他】

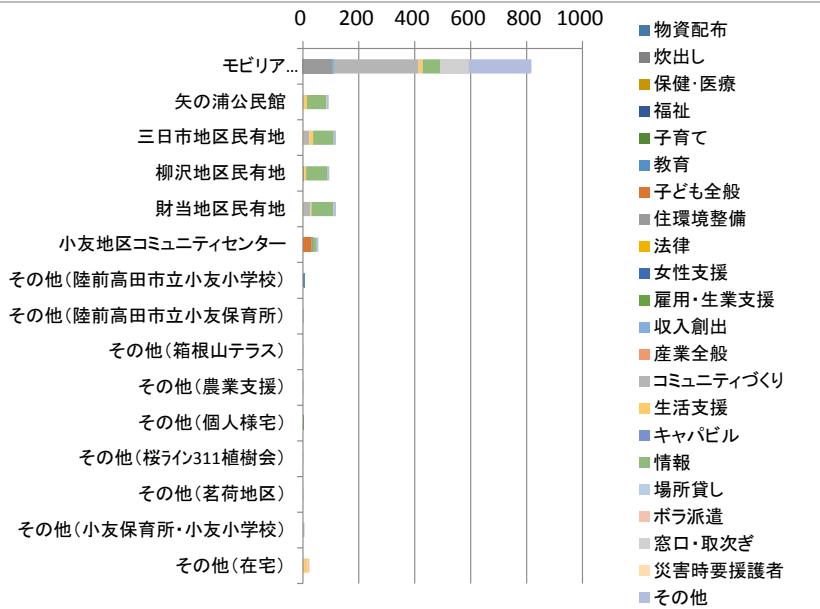
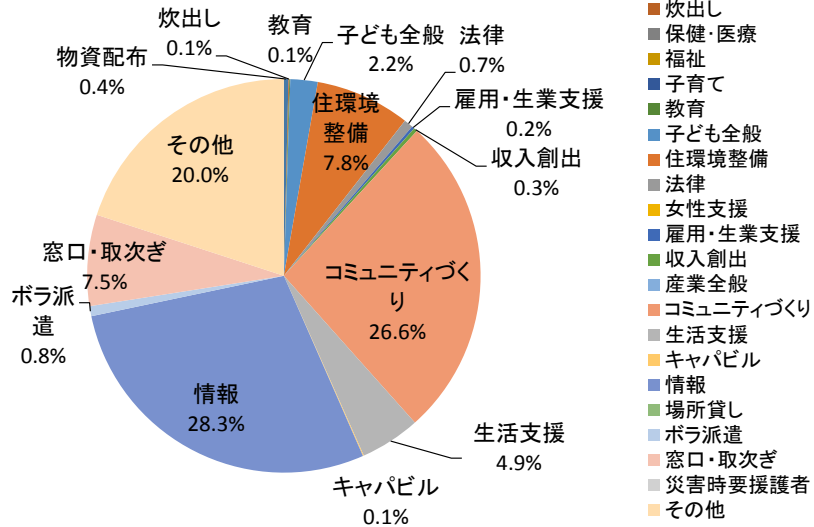
## 補足事項:

- ・最も多い活動は【情報】、次いで【コミュニティづくり】の割合が大きくなっている。
- ・再生の里ヤルキタウンを拠点に活動する団体があるため、支援回数が多くなっている。
- ・在宅住民を対象とした活動は2014年度調査で初出。



# 小友町支援内訳

小友町 世帯数:282 支援回数:1336



## 活動内容内訳

世帯数:	282	支援回数:	1336	充足率:	473.8%
------	-----	-------	------	------	--------

活動内容	回数	割合	活動内容	回数	割合
物資配布	5	0.4%	収入創出	4	0.3%
炊出し	1	0.1%	産業全般	0	0.0%
保健・医療	0	0.0%	コミュニティづくり	355	26.6%
福祉	0	0.0%	生活支援	66	4.9%
子育て	0	0.0%	キャパビル	1	0.1%
教育	1	0.1%	情報	378	28.3%
子ども全般	30	2.2%	場所貸し	0	0.0%
住環境整備	104	7.8%	ボラ派遣	11	0.8%
法律	10	0.7%	窓口・取次ぎ	100	7.5%
女性支援	0	0.0%	災害時要援護者支援	0	0.0%
雇用・生業支援	3	0.2%	その他	267	20.0%

計 1336

### 小友町

活動団体	活動分野
遠野まごころネット	【ボラ】
陸前たがだ八起プロジェクト	【住】【コミュ】【窓・取】
パクト	【物】【子全般】
まあむたかた	【法】【コミュ】【キャパ】
桜ライン311	【教】
陸前高田市仮設住宅連絡会	【コミュ】【情】【他】
いわて生活協同組合	【炊】
ReVA復興ボランティアチーム・上尾	【住】【雇・生】【コミュ】【生活】
遠野山・里・暮らしネットワーク	【収】【コミュ】【生活】【ボラ】
シャンティ国際ボランティア会	【他】
神戸大学東北ボランティアバスプロジェクト	【生活】
いわて三陸ひまわり基金法律事務所	【法】
陸前高田市社会福祉協議会	【コミュ】
前田建設工業株式会社	【ボラ】
教育支援チーム「まつ」	【物】【コミュ】
もっちゃん森の仲間たち	【他】

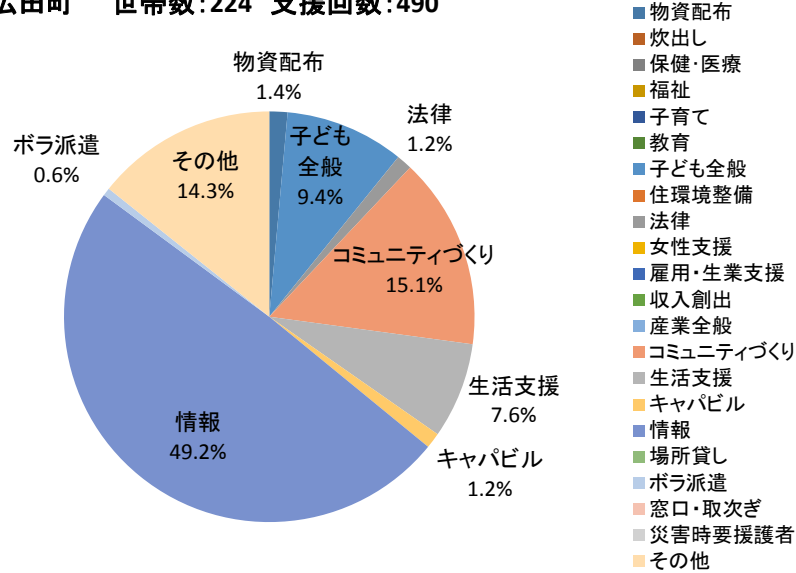
### 補足事項:

- ・【情報】と【コミュニティづくり】の割合が大きくなっている。
- ・【住環境整備】の活動の割合が他地区と比べて高い。
- ・モビリアを拠点とした活動を実施する団体が複数あるため、支援回数も多くなっている。
- ・在宅住民を対象とした活動は2014年度調査で初出。



# 広田町支援内訳

広田町 世帯数:224 支援回数:490



活動内容内訳					
世帯数:	224	支援回数:	490	充足率:	218.8%

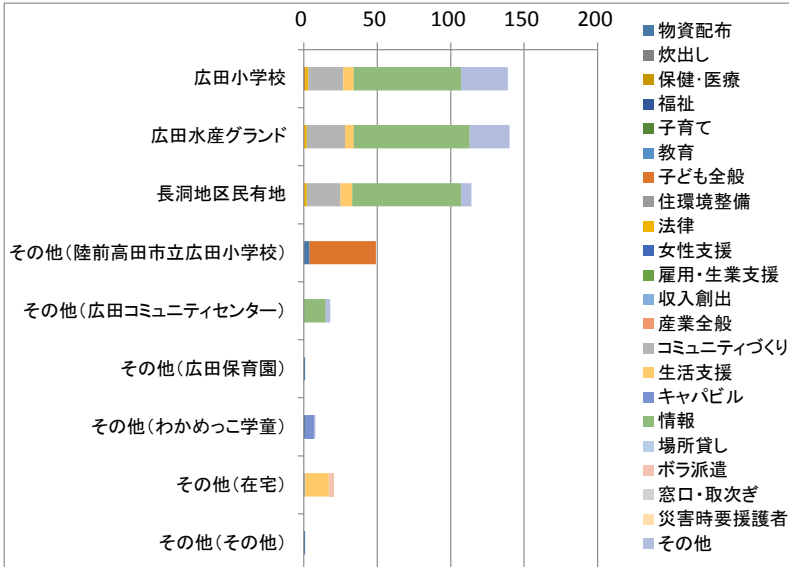
物資配布	7	1.4%	収入創出	0	0.0%
炊出し	0	0.0%	産業全般	0	0.0%
保健・医療	0	0.0%	コミュニティづくり	74	15.1%
福祉	0	0.0%	生活支援	37	7.6%
子育て	0	0.0%	キャパビル	6	1.2%
教育	0	0.0%	情報	241	49.2%
子ども全般	46	9.4%	場所貸し	0	0.0%
住環境整備	0	0.0%	ボランティア派遣	3	0.6%
法律	6	1.2%	窓口・取次ぎ	0	0.0%
女性支援	0	0.0%	災害時要援護者支援	0	0.0%
雇用・生業支援	0	0.0%	その他	70	14.3%
				計	490

広田町

活動団体	活動分野
パクト	【物】【子全般】
まあむたかた	【法】【コミュ】
陸前高田市仮設住宅連絡会	【コミュ】【情】【他】
遠野山・里・暮らしネットワーク	【コミュ】【生活】【ボラ】
シャンティ国際ボランティア会	【他】
神戸大学東北ボランティアバスプロジェクト	【生活】
セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン	【物】【キャパ】【他】
国境なき子どもたち	【子全般】
いわて三陸ひまわり基金法律事務所	【法】
陸前高田市社会福祉協議会	【コミュ】
教育支援チーム「まつ」	【物】
もっちゃん森の仲間たち	【物】

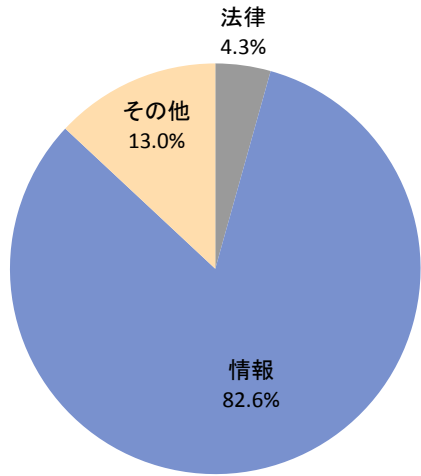
補足事項:

- ・継続的な情報提供支援を行う団体が活動しているため、【情報】の割合が大きくなっている。
- ・活動場所として、公的施設では広田小学校の回数が多い。
- ・活動分野の数が市内他地区と比べて少ない傾向。
- ・在宅住民を対象とした活動は2014年度調査で初出。



# 住田町支援内訳

住田町 世帯数:63 支援回数:69



- 物資配布
- 炊出し
- 保健・医療
- 福祉
- 子育て
- 教育
- 子ども全般
- 住環境整備
- 法律
- 女性支援
- 雇用・生業支援
- 収入創出
- 産業全般
- コミュニティづくり
- 生活支援
- キャパビル
- 情報
- 場所貸し
- ボラ派遣
- 窓口・取次ぎ
- 災害時要援護者
- その他

## 活動内容内訳

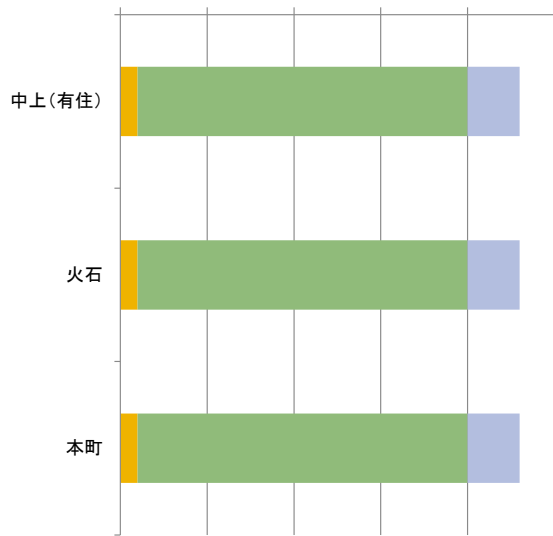
世帯数:	63	支援回数:	69	充足率:	109.5%
------	----	-------	----	------	--------

物資配布	0	0.0%	収入創出	0	0.0%
炊出し	0	0.0%	産業全般	0	0.0%
保健・医療	0	0.0%	コミュニティづくり	0	0.0%
福祉	0	0.0%	生活支援	0	0.0%
子育て	0	0.0%	キャパビル	0	0.0%
教育	0	0.0%	情報	57	82.6%
子ども全般	0	0.0%	場所貸し	0	0.0%
住環境整備	0	0.0%	ボランティア派遣	0	0.0%
法律	3	4.3%	窓口・取次	0	0.0%
女性支援	0	0.0%	災害時要援護者支援	0	0.0%
雇用・生業支援	0	0.0%	その他	9	13.0%
計			69		

住田町

活動団体	活動分野
まあむたかた	【法】
陸前高田市仮設住宅連絡会	【情】【他】

0 5 10 15 20 25



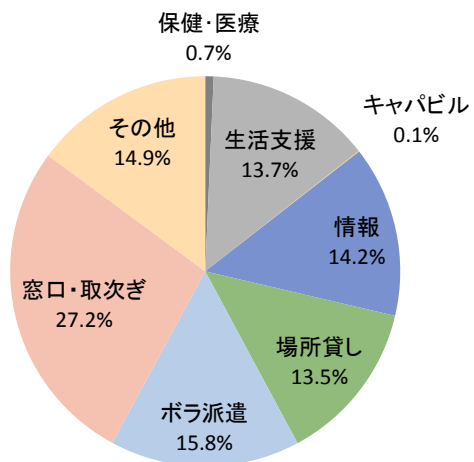
- 物資配布
- 炊出し
- 保健・医療
- 福祉
- 子育て
- 教育
- 子ども全般
- 住環境整備
- 法律
- 女性支援
- 雇用・生業支援
- 収入創出
- 産業全般
- コミュニティづくり
- 生活支援
- キャパビル
- 情報
- 場所貸し
- ボラ派遣
- 窓口・取次ぎ
- 災害時要援護者
- その他

### 補足事項:

・継続的な情報提供支援を行う団体が活動しているため、【情報】の割合が大きくなっている。

## その他・市内全域対象 支援内訳

その他 世帯数: 2131 支援回数: 1720



- 物資配布
- 炊出し
- 保健・医療
- 福祉
- 子育て
- 教育
- 子ども全般
- 住環境整備
- 法律
- 女性支援
- 雇用・生業支援
- 収入創出
- 産業全般
- コミュニティづくり
- 生活支援
- キャパビル
- 情報
- 場所貸し
- ボラ派遣
- 窓口・取次ぎ
- 災害時要援護者
- その他

## 活動内容内訳

世帯数:	2131	支援回数:	1720	充足率:	80.7%
------	------	-------	------	------	-------

活動分野	回数	割合 (%)	活動分野	回数	割合 (%)
物資配布	0	0.0%	収入創出	0	0.0%
炊出し	0	0.0%	産業全般	0	0.0%
保健・医療	12	0.7%	コミュニティづくり	0	0.0%
福祉	0	0.0%	生活支援	236	13.7%
子育て	0	0.0%	キャパビル	1	0.1%
教育	0	0.0%	情報	244	14.2%
子ども全般	0	0.0%	場所貸し	232	13.5%
住環境整備	0	0.0%	ボランティア派遣	271	15.8%
法律	0	0.0%	窓口・取次ぎ	468	27.2%
女性支援	0	0.0%	災害時要援護者支援	0	0.0%
雇用・生業支援	0	0.0%	その他	256	14.9%
			計	1720	

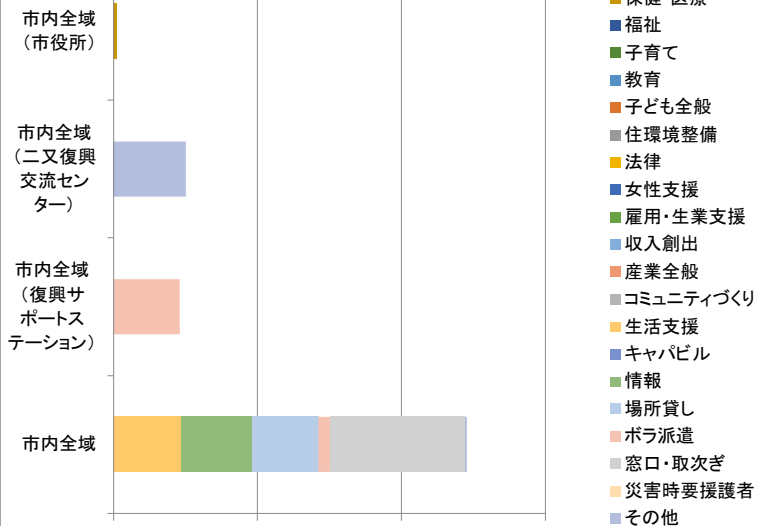
## その他・市内全域対象

活動団体	活動分野
難民支援協会	【他】
バクト	【ボラ】【他】
まあむたかた	【女】【コミュ】【キャパ】
保健医療福祉未来図会議	【医・保】
陸前高田まちづくり協働センター	【情】【場】【窓・取】
いわて連携復興センター	【キャパ】
岩大E_code	【コミュ】【情】
6大学支援ネットワーク	【他】
陸前高田市社会福祉協議会	【生活】【情】【ボラ】【窓・取】
かながわ311ネットワーク	【ボラ】【他】

## 補足事項:

・【生活支援】【情報】【場所貸し】【ボラ派遣】【窓口・取次ぎ】【その他】に関しては、通年開設の支援拠点機能を有しているものや、巡回型の支援活動、通年欠けて実施する事業内容の支援があるため、支援量が多くなっている。

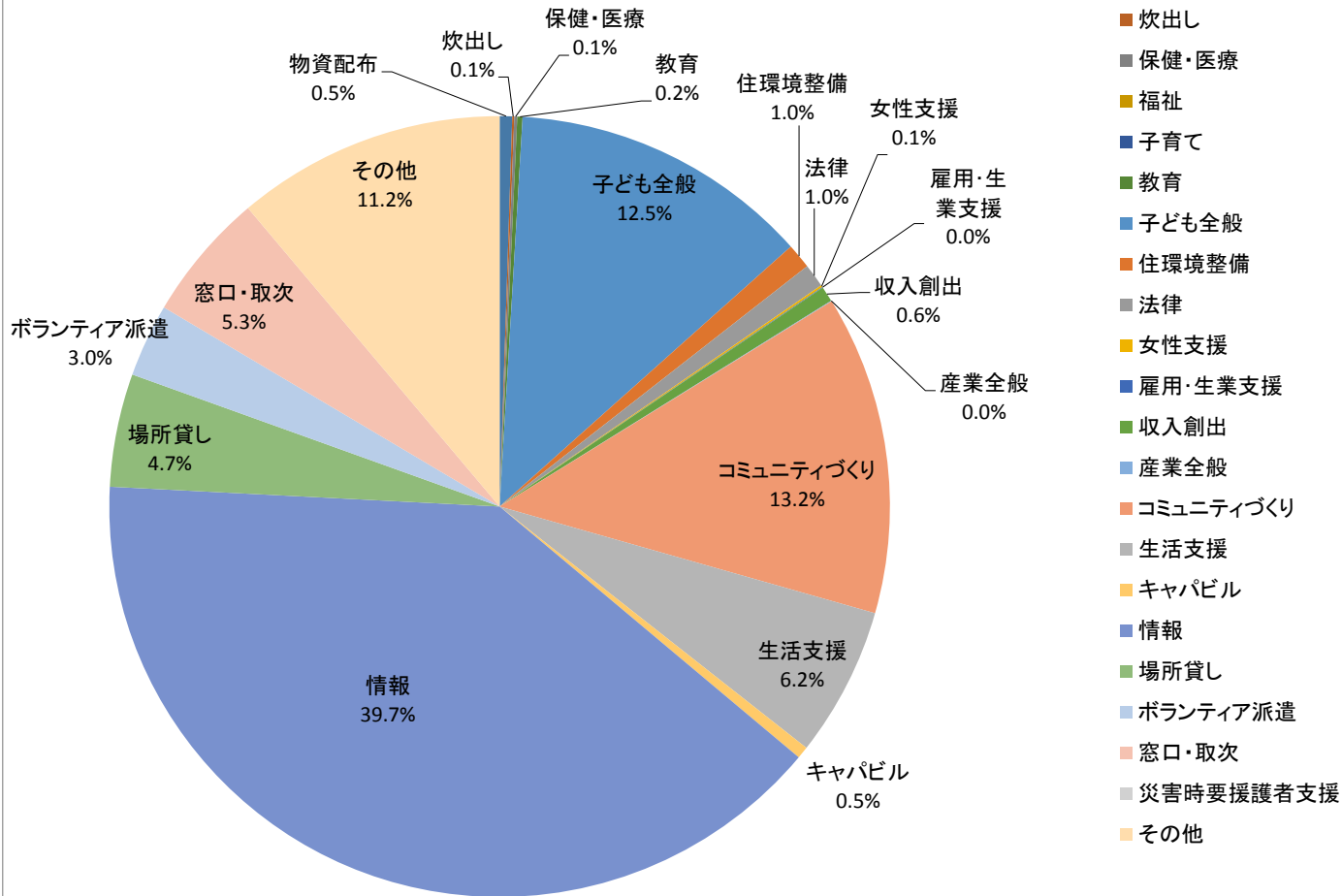
0 500 1000 1500





# 合計

支援回数合計 : 10661



## 活動内容内訳

支援回数:	10661	
物資配布	55	0.5%
炊出し	9	0.1%
保健・医療	13	0.1%
福祉	0	0.0%
子育て	0	0.0%
教育	23	0.2%
子ども全般	1329	12.5%
住環境整備	111	1.0%
法律	103	1.0%
女性支援	9	0.1%
雇用・生業支援	3	0.0%
収入創出	68	0.6%
産業全般	3	0.0%
コミュニティづくり	1409	13.2%
生活支援	661	6.2%
キャパビル	53	0.5%
情報	4233	39.7%
場所貸し	499	4.7%
ボランティア派遣	323	3.0%
窓口・取次	568	5.3%
災害時要援護者支援	0	0.0%
その他	1189	11.2%
計	10661	

## 支援概況アンケート集計結果

### 【概要】

アンケート実施期間：2015年4～5月

対象期間：2014年2月～2015年1月

内容：対象期間内における支援活動の内容・変遷等とその背景・経緯について

<参考>アンケート質問事項

1. 対象期間（2014年2月～2015年1月）における、陸前高田での支援活動についてお尋ねします。
  - 1-1. 対象期間の主たる活動について、内容を教えてください。（自由記述）
  - 1-2. その活動を開始したきっかけを教えてください。
    - ・要因（選択式）：現地における対象者からの声／代表者・コアメンバーからの発案／そのほかの要因
    - ・概要（自由記述）
2. 対象期間（2014年2月～2015年1月）における、貴団体の陸前高田での支援活動の継続状況を選択してください。（選択式）

まだ継続している活動がある／すべての活動が途中で終了している
3. 対象期間（2014年2月～2015年1月）に行なわれていた活動のうち、2014年2月現在も継続しているものについてお教えてください。（自由記述）
  - ・変化の有無
  - ・生じた時期
  - ・生じた変化
  - ・背景・理由
4. 活動のうち、対象期間（2014年2月～2015年1月）内で終了したものについてお尋ねします。
  - 4-1. 終了の形態（選択式）

対象期間内で終了した事業はない／陸前高田で展開してきた活動の一部を終了（継続している活動も有）／陸前高田での事業をすべて終了し撤退（団体としての活動は継続）／団体そのものを解散／その他
  - 4-2. 終了した活動の内容（自由記述）
  - 4-3. 対象期間（2014年2月～2015年1月）内に、支援活動を終了した理由は何ですか？（差支えの無い範囲でお知らせください。）（自由記述）
  - 4-4. 活動を終了する際の、引き継ぎ有無と、その背景を差支えの無い範囲でお知らせください。（自由記述）
    - ・引継ぎ有無
    - ・背景
5. 対象期間（2014年2月～2015年1月）で、活動が地域にもたらした変化を教えてください。（自由記述）
  - ・生じた時期
  - ・生じた変化
  - ・内容の詳細
6. 対象期間（2014年2月～2015年1月）における、他団体や行政・企業との連携事業についてお尋ねします。各連携事業について、取組まれた時期・内容・理由と、成果・反省点について、差し支えのない範囲で教えてください。
  - ・事業名
  - ・事業の時期
  - ・実施頻度
  - ・連携相手
  - ・自団体の役割
  - ・連携先の役割
  - ・連携に至った理由・背景
  - ・事業実施の成果・反省点

参考：カテゴリー一覧

【物】	物資配布	【子全般】	子ども全般	【産業】	産業全般	【ボラ】	ボランティア派遣
【炊】	炊出し	【住】	住環境整備	【コミュ】	コミュニティづくり	【窓・取】	窓口・取次
【医・保】	医療・保健	【法】	法律	【生活】	生活支援	【要援】	災害時要援護者支援
【福】	福祉	【女】	女性支援	【キャパ】	キャパビル（講習・研修）	【他】	その他
【子育】	子育て	【雇・生】	雇用・生業支援	【情】	情報		
【教】	教育	【収】	収入創出	【場】	場所貸し		

【結果・概況】

回答数：37 団体

1. 支援活動内容

1-1. 対象期間内に実施された活動内容一覧

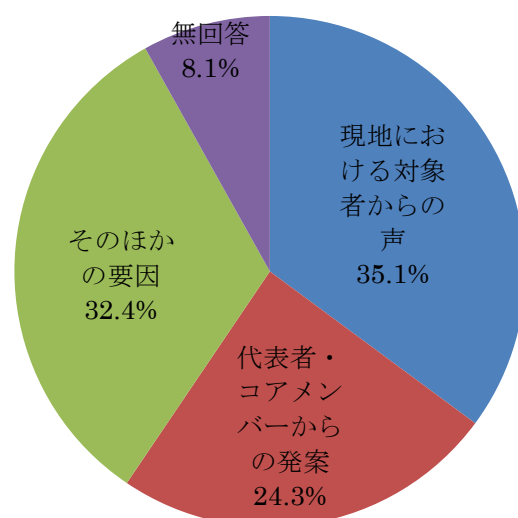
生活支援	<p>【全般】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 炊き出し</li> <li>・ 物資配布</li> </ul>	<p>【仮設・みなし仮設を対象】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 足湯活動</li> <li>・ リフレッシュツアー、バスツアーの開催</li> <li>・ 自立支援活動</li> <li>・ 見守り活動、巡回</li> <li>・ 住環境整備（草取り、高所清掃）</li> <li>・ 引っ越し作業支援</li> </ul>
保健・医療・福祉	<p>【福祉】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地区と協働した地域福祉活動の推進</li> <li>・ 在宅福祉活動の推進（介護保険・障がい者ヘルパー・ケアマネ事業所）</li> </ul>	<p>【ネットワーク】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 健康づくりやコミュニティづくりに関するハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチを考える場の設定</li> </ul>
教育・子ども	<p>【教育】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習支援（学びの部屋）</li> </ul> <p>【学校支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市内小中学校、保育園への物資配布</li> <li>・ 農業・水産高校への奨学金支援</li> </ul> <p>【支援事業・ケア活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 発達面で支援が必要な未就学児・児童に対するサポート</li> <li>・ 大切な人をなくした子どもとその保護者のためのグリーフプログラム</li> <li>・ 研修会・講座の開催</li> </ul>	<p>【場の提供】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子どもの居場所作り</li> <li>・ 移動型子どもセンターによる子どもの居場所作り・見守り支援</li> <li>・ 学習スペース、フリースペースの運営、解放</li> </ul> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 子ども支援関係者の連携会議の開催</li> <li>・ 図書館の運営</li> <li>・ 学童支援員の研修</li> <li>・ 「子どもまちづくりクラブ」の定期実施と地域への報告会の開催</li> </ul>
なりわい（雇用・収入創出・産業支援）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各団体の商品販売</li> <li>・ 簡易宿泊施設運営管理</li> <li>・ 特産物の6次産業化、担い手づくり</li> <li>・ 就農体験受入れ</li> <li>・ ITによる地域貢献活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 若者の集う拠点づくり</li> <li>・ 産直運営</li> <li>・ 地元食材の特産メニュー提供</li> <li>・ 物産展（補助含む）</li> <li>・ 手仕事支援</li> </ul>
コミュニティづくり（サロン・イベント運営・地域コミュニティアプローチ）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ サロン・イベント運営支援（お祭り等地域行事含む）</li> <li>・ 自治会・コミュニティサポート</li> <li>・ 住民交流の機会創出（お茶会、サロン活動）</li> <li>・ 他地域との交流機会創出（ツアー、研修）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ イベント開催（小学生対象のフットサル交流会、食事会）</li> <li>・ コミュニティスペースの運営</li> <li>・ 花壇や畑の手伝い</li> <li>・ 畑整備／農園づくり</li> </ul>



法律	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法律相談、弁護士業務全般、講演会・勉強会・説明会講師等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相談支援センターの運営・窓口での相談対応・専門家相談（弁護士、司法書士等）の実施</li> </ul>
情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報誌（復興関連／被災者向け）の発行</li> <li>・定期発行の広報紙作成、発行</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報誌（フリーペーパー／観光寄り）の発行、アテンド</li> </ul>
ボランティア（派遣・コーディネート）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア派遣（ボラバス・大学生・企業）</li> <li>・ボランティア受け入れ、窓口業務</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア・支援団体コーディネート</li> </ul>
その他	<p>【キャパビル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元団体・ネットワークの組織基盤整備、フォローアップ</li> <li>・研修・講習の開催</li> </ul> <p>【防災・減災】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東日本大震災による津波被害の風化防止、継承の為の桜並木の植樹活動</li> <li>・植樹会を通じた小学校への減災教育</li> </ul> <p>【中間支援・後方支援】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内における中間支援（相談窓口の開設・情報発信）</li> <li>・県内・管内での中間支援業務</li> <li>・資金助成</li> <li>・関係団体の事業への物資（印刷物提供）・資金面での支援</li> </ul>	<p>【連携促進】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支援団体間のネットワーク強化</li> <li>・連携調整</li> </ul> <p>【調査活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仮設住宅での調査活動</li> </ul> <p>【その他】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・住民主体のワークショップの開催等</li> <li>・被災地支援の一環で行われる学校、企業、団体等の研修・活動のコーディネート</li> </ul>

## 1-2 活動を開始した要因

現地における対象者からの声	35.1% (13 団体)
代表者・コアメンバーからの発案	24.3% (9 団体)
そのほかの要因	32.4% (12 団体)
無回答	8.1% (3 団体)



○現地での対象者の声から

**ふれあいサロン、バスボランティア、各団体の商品販売**

組合員組織として、地域で活動している組合員（主に女性）から出される地域の要望を拾い、実現できるもの、取り組みが必要なものを積極的に取り組んでいる。時間が経ち、要望も変わってきたが、まだまだ活動は継続する。

**「逃げ地図」作成支援、仮設住宅地暮らし調査など**

※詳細の記述なし

**視察・交流ツアー、ボランティア派遣**

現地で求められていること、現状を知って頂くことにより、今後の支援のあり方や、各地での防災・減災に繋げる。地元にお金を落とす。現地のニーズに合わせてのボランティアコーディネート。

**仮設住宅の住環境整備（修繕、草刈り）、コミュニティ作り（お祭り、バスツアーなど）、生活支援（高所掃除、巡回など）**

民生委員さんとの懇談会や直接仮設を巡回した際に、仮設住宅の簡易設営のために起こった玄関屋根の老朽化による雨漏りや、不便なまま我慢していた階段の段差、ベランダの日差しの短さなど、不便な個所のニーズが上がったほか、高齢者が多く、以前から換気扇やエアコンなど高所掃除ができない、敷地が広すぎて草刈りが容易ではないとの声があった。地域コミュニティ作りの一環として、お祭りやおもちつき、バスツアーなどのイベントを企画運営。

**子どもに学習スペース・居場所を提供する、バスを改造した「走る！KnK子どもセンター」を運行**

震災後、仮設住宅での生活で子どもたちがのびのびと過ごすことが難しくなった。市内の公園や学校の校庭に仮設住宅が建設され、また道路の交通量も増えた事から市内で安全に遊べる場所が少なくなった。また、こういった状況で放課後や休日の子どもの様子が心配だという声を陸前高田市教育委員会を通し確認したことがきっかけ。改造バスを使用した移動型子どもセンターを2011年12月から開始し、小中学生が友人やスタッフと共に思い思いに過ごせるよう「居場所」を提供している。

**モビリア仮設住宅とその周辺地域へのコミュニティ形成、自立支援サポート**

避難所から仮設住宅へ、仮設住宅から本設へ、被災者と共にエンパワーメントと、コミュニティーサポートを行っている。

**交流を継続している地域や団体の取り組みへの募金活用（助成）、ボランティア支援、交流活動**

うごく七夕祭りでは、物資支援を通してつながった認知症にやさしい地域支援の会の活動拠点地域（高田町荒町）からのお祭りへの支援要請を受けて3年継続。その他の団体への支援は、陸前高田市における炊き出しや物資支援をともに取り組んだ団体から招かれて始まった会員・職員のツアーや、研修を通して交流活動で対象者からの要請に応える形で継続。

**「中間支援」「自治会サポート(仮設住宅)」「コミュニティサポート」を3本柱として実施**

仮設住宅自治会長たちが、「支援団体との調整を含む自治会管理等における会長や役員の負担が大きい」「他の仮設の状況がわからない」「支援格差の問題」等の話をする中で、解決に向けたアクションを！との動きが強まり、会長ら自らが市へアプローチし、委託事業として事業を開始した。

**発達に支援が必要な未就学児、及び就学児童（小学生～中学生等）に対して児童発達支援事業及び放課後等デイサービス事業を提供**

震災後、全戸調査を踏まえ、児童のサービスが少ないことから一時預かりから始め、2013年9月から岩手県の認可を受けて児童発達支援事業及び放課後等デイサービス事業を運営することとなった。

## 市内小中学校・保育園への物資の配布、高田東中学校3年生「絆プロジェクト」への支援活動、フリースペース「まっぽっくり」の運営

陸前高田市教育委員会が保有していた救援物資をリストアップし、市内の小・中学校、保育所に配布。さらに保護者へ配布。さらに、子育て支援団体へ配布した。高田東中学校3年生から、日めくりカレンダーを作成したいということで、制作費の一部を支援した。

## 畑作業 花壇整備

外に出てきてもらいたかった。

## 学習支援（学びの部屋）、仮設住宅支援（農園）、まちづくり（若興人の家）、農業支援、畑整備、スポーツ交流

※詳細の記述なし

## 住民交流、商店街店舗の販売促進を目的とした事業の実施

被災事業者ならびに地域住民の方々より、賑わい創出を目的とした事業実施の要請があったため。

## 〇代表・コアメンバーの発案

### 東日本大震災による津波被害の風化防止、継承の為の桜並木の植樹事業

人的被害の軽減を目的として。現在は地元小学校との植樹会等を通して減災教育なども。

### NPO、地縁団体からの設立・組織運営・企画運営等に対する相談窓口の設置、復興支援とまちづくりに取り組むNPO等のネットワーク推進

震災後、陸前高田市にはこれまで少なかったNPOが多く立ち上がったが、ノウハウも経験も資金もない中で、陸前高田市には中間支援拠点がないことを受けて、2012年に拠点を設置した。

### 横田地区の住民を対象とし、横田小体育館でフットサル交流会（小学生）、周辺で昼食会などを開催

津波による被災地域でのニーズが減少しソフト面での支援のあり方を探る中で、校庭に仮設住宅が建設されて遊び場を失った子どもたちや、同じ地区に居住していながら通っている学校が違うために日頃一緒に遊ばない子どもたちが、思い切り身体を動かして仲良くなるきっかけになればいいな、という思いに至ったことから。

### 農業（米崎リンゴを使ったジャム、ジュースの開発、販売、就農体験受入れ）、IT事業、若者事業

農業：超高齢化の為年々りんご農家が減少する中で、米崎りんごを守り、残し、繋げる為に、「米崎りんごの6次化＋担い手の創出＝農業の7次化」として課題解決を目指す。IT事業：陸前高田市を含む気仙地域ではパソコンが使えない市民が多く、ICTリテラシーの低い地域である。そういったICTの課題解決としてWeb制作を地域で行い、その収益の一部を活用し、地域情報発信サービスの展開や高校生へのICT教育、女性へのテレワークの促進等、ITによる地域貢献活動を実施。

若者事業：首都圏の大学生と協働し、市内の築50年の平屋を改修、若者の集う拠点づくりを実施するとともに、まちあるきによる歴史や魅力の発見・発信事業を実施。

### 子ども全般（図書館業務）

「子どもたちへくあしたの本プロジェクト」により運営される、陸前高田市にできた仮設図書館。今泉天満宮の境内にあり、天神大杉（樹齢700年以上）の脇に建っている。木造平屋の建物は三井物産の協力により建設。

### ニーズのマッチング、団体運営支援、ネットワーキング等を中心とした中間支援業務

東日本大震災において特に甚大な被害のあった岩手県沿岸部の復興に向け、全国からの様々な支援と、自立・復興のためにその支援を必要とする人を結ぶとともに、必要な情報・技術を提供し、被災された地域住民の方一人ひとりが前向きに地域復興に向け歩むことのできる環境を構築したいと思ったので、活動を開始した。行政と民間との定例ミーティングによる協働の場や勉強会などを主催している。

<b>当社社員とその家族による企業ボランティア</b>
震災直後に、会社として被災地を継続的に支援する必要があると判断し、取り組み始めた。それ以来、継続的に活動している。
<b>月に二回、病気・自死・交通事故・震災等で親や兄弟、親戚や友達など大切な人を亡くした子どもと保護者へのグリーフプログラムの提供、ニーズに合わせたファシリテーターの養成講座開催、家庭訪問など</b>
日本では、自殺等により親など大切な人を亡くしている子どもたちが多く、サポートをしていかないといけない中、震災により、多くの大人・子どもたちが死別・喪失体験をしているため、サポートをする必要があり活動を始めた。ファシリテーターの養成講座の開催や、大切な人を亡くした子どもの家庭訪問、グリーフや子どもたちへの寄り添い方についての研修会などもニーズに合わせて開催していく。
<b>資金助成・連携調整</b>
※詳細の記述なし

○その他の要因

<b>陸前高田市役所窓口での相談対応、専門家による巡回相談の実施、情報発信</b>
平成 23 年 7 月、県として、主に被災者の生活再建の支援のため、大船渡地区合同庁舎 1 階に常設の窓口を設置した。平成 24 年 8 月、陸前高田市内に住む方も利用しやすいように、陸前高田市と連携して、市役所内に相談員を派遣して相談窓口を設置した。 現在は、毎週木曜日に開催しており、当センターの相談員 1 名が市職員とともに問合せや相談に対応している。
<b>コミュニティ広場の運営（軽喫茶&amp;産直等）、地場食材の特産メニューの提供、地域交流イベント開催、被災地視察ツアーやボランティア受入れ。市民の公園「花画廊」や園芸広場の提供・植樹祭の開催、貸室やパーキングエリアほかフリースペースの提供、中高生の空間「自間学かふえ」の開放</b>
壊滅の市街地、甚大な犠牲者、これ“以上一人たりとも二次的犠牲者を出してはならない！”をコンセプトに喫緊に必要なもの「コミュニティの場」と直感。5 人の被災者と共に中小機構仮設店舗を利用して“憩える！集える！元気を発信する！みんなのコミュニティ広場”を創設。復旧復興は国行政がやることである。そこまでの繋ぎは民間の役割と認識、「再生への足掛かり」を基本理念にボランティアの延長線で法人格を得て地域交流、住民交流を主体に、被災地の元気発信拠点とし交流人口拡大に繋げるべく行政への補完に努めている。
<b>情報誌発行、物産展（含 補助）や訪問者へのアテンドなど市内と市外のつなぎめとしての役割</b>
栃ヶ沢ベースができるまえに事業者とのご縁をいただき、学生の視点から仮設商店街に対する提案を行うという機会をいただいて以来、通い始めたのがきっかけ。
<b>市内 3 か所移動図書館活動（滝の里、高田高校第 2 グランド、広田小）、モビリア仮設団地北集会室内において図書館運営</b>
市立図書館が被災してしまい、住民に本を読む機会を途切れさせないため移動図書館活動を始めた。
<b>仮設集会所での足湯・手芸・お茶会</b>
大学からの要請と学生の行きたいという要望がマッチングした為。
<b>2014 年 3 月まで実施してきた地元団体・ネットワーク支援のフォローアップ、組織基盤整備事業</b>
ジャパンプラットフォーム共に生きるファンドの助成を得て、14 年 3 月まで支援してきた団体・ネットワークへの継続したフォローアップ、必要に応じてアドバイス等実施



**陸前高田市における保健医療福祉を切り口とした健康づくりやコミュニティづくりに関するハイリスクアプローチとポピュレーションアプローチを考え続ける場として活動を継続**

被災直後、誰もが保健医療福祉に関する情報を持ち合わせておらず、その現状の把握と支援の偏りを無くすと同時に、中長期の単位で今とこれからを考える場が必要と考え開催されることとなり、以来、毎月1回継続して実施している。

**地域福祉活動の推進（仮設住宅など在住の被災者見守り訪問活動・サロン活動、ボランティアセンター運営、地区と協働した地区福祉活動の推進など）、在宅福祉活動の推進、各福祉団体事務局、各種相談窓口、月1回の広報紙作成など情報提供**

主な活動については、震災以前の活動を継続。

震災により、仮設住宅等在住の被災された方々への支援として、見守り訪問やサロン活動を2011年より行っている。

**災害弱者仮設住宅から災害復興公営住宅への引っ越し作業、道路沿線の花壇の整地作業、草取り作業**

支援要旨として、震災から3年以上が経過し、沿岸復興支援の在り方も変わってきた。災害復興公営住宅や宅地の整備も少しずつ進んできている。被災地からの要請に応じ、ボランティアを現地まで派遣し、今後とも対応していく。

**法律相談、弁護士業務全般、講演会・勉強会・説明会講師等**

岩手弁護士会、日本弁護士連合会による法律事務所の設置による。

**他団体が主催する「子どもまちづくりクラブ」への印刷物の提供、資金面での支援**

陸前高田市の子供の育成について継続支援を希望していた。

**神奈川から被災地支援の一環として訪れる学校や団体向けの活動コーディネート**

発災直後から支援活動を継続している団体、学生に被災地の現状を見せたいという学校、学生自らが被災地を訪れてみたいと考えた学校等からの依頼を受けての活動。

○カテゴリ記載なし

**子ども支援事業、ボランティア受入れ事業、簡易宿泊所運営事業**

※詳細の記述なし

**高齢者（単身、夫婦）の見守り、コミュニティづくり（ほっとひといき等）、手仕事支援、ボランティア・研修派遣**

設立時から大槌町や陸前高田市の住民ニーズに応える為。

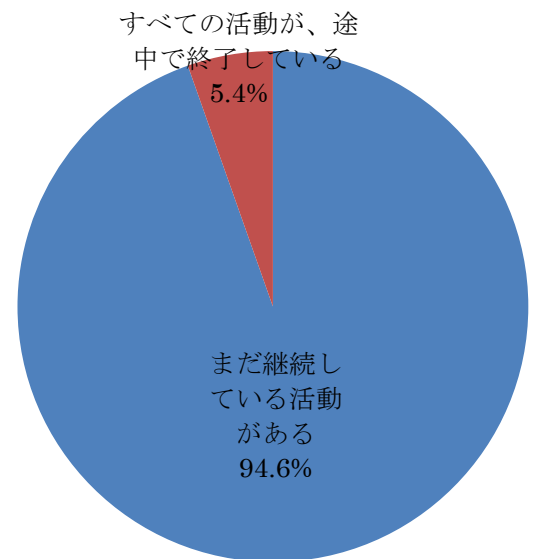
**小学校への体育備品提供、農業・水産高校への奨学金支援（教育）、子どもの保護、子どもにやさしい地域づくりとして「子どもまちづくりクラブ」の定期実施とそれに伴う「地域報告会」の実施など**

東日本大震災直後から、子どもたちと家族の日常性の回復を目指すと同時に、地域の復興に向けたまちづくりに、子どもたち自身が声をあげ、参加できるような活動を行っている。

子どもにやさしい地域づくり…セーブ・ザ・チルドレンが2011年5月～6月にかけて岩手県・宮城県の子どもたちに行った調査の結果、たくさんの子どもたちが「子ども同士で話し合っただけでまちのために何かしたい」と考えていることが分かった。この子どもたちの声を受けて「子どもまちづくりクラブ」を開始。小学5年生～高校生の子どもたちが定期的に集まって、子ども同士だけでなく地域の方や行政、専門家とも話し合いながら、地域の復興に向け様々な活動に取り組んでいる。

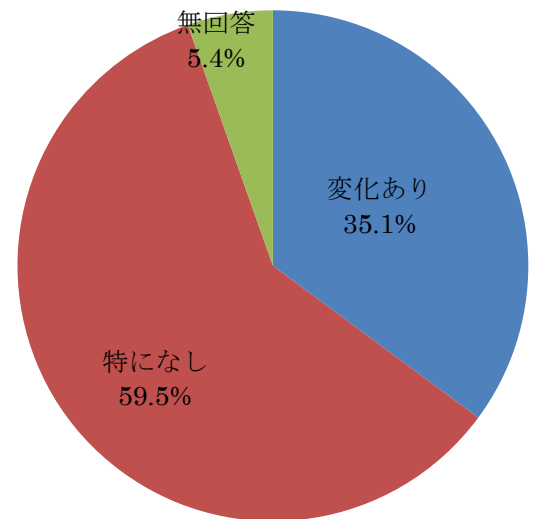
## 2. 支援の継続状況

まだ継続している活動がある	94.6% (35 団体)
すべての活動が、途中で終了している	5.4% (2 団体)



## 3 支援内容の変化

変化あり	35.1% (13 団体)
特になし	59.5% (22 団体)
無回答	5.4% (2 団体)



- ・ 対象期間中の支援内容に大きな変化はなかったと回答した団体が多い。
- ・ 対象期間外の回答ではあるが、「2015年4月」を上げる団体が複数あった。背景は仮設住宅から公営住宅や恒久住宅への移行期のコミュニティへの配慮などが挙げられている。

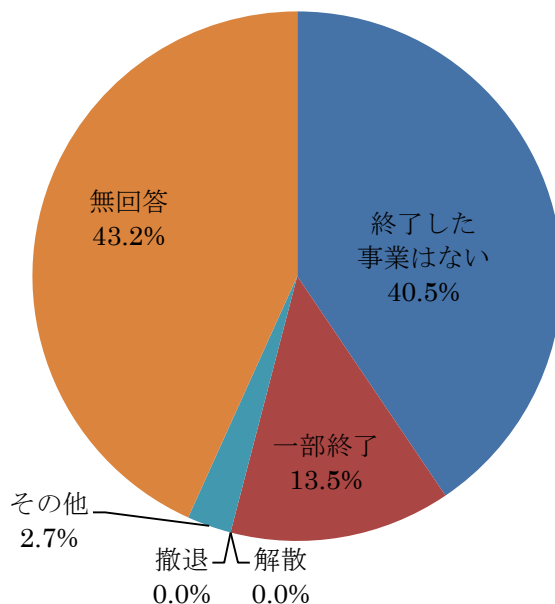
○時系列の変化集計（表右側の【】は回答団体の支援カテゴリ）

2014年2月	モビリア仮設自治会の新たな発足に携わった。その後、発足当時の自治会にかわり、新たな自治会が立ち上がり、組織化を図った。	【コミュ】 【住】 【窓・取】
	マイクロバスによる公募型の多人数支援によるガレキ撤去から、個別のニーズに応じた少人数（5～6名程度）の対応での支援に変更したい。災害支援から復興の支援にシフトし、個別世帯のニーズに対応が必要だとの声があり、支援方法を切り替えた。そのため、登録型によるグループを結成し活動しているが、2014年10月23日が最後の依頼対応活動。	【ボラ】
2014年4月	団体の活動が、住民に知っていただけていくことが増えてきた。また、他県の大学生などから陸前高田を案内してほしい、といった依頼を受ける機会が増えてきた。これまでつくってきた情報誌などを手に取った人が増えてきたからだと思う。また、他県の学生たちとの交流については、ネットなどを通してこちらの活動を知っていただけていくことが増えてきているからだと考えている。	【情】 【コミュ】

	主催の学童指導員研修から地元主催の研修会実現に向けての基盤作り。学童指導員の組織基盤強化として事業計画にもとづいて実施。	【子全般】 【キャパ】 【物】 【他】
2014年7月	14年3月まで直接協働しながら進めてきた事業への引継ぎ等を終え、7月より助成を得て、14年3月まで支援してきた団体・ネットワークへの継続したフォローアップ、必要に応じてアドバイス等実施。2013年度からの主な事業として、支援団体間の連絡調整を実施してきたが、助成事業が14年3月で一旦終了した。その後、7月からのフォローアップ事業を目指して再度事業助成を申請し、承認を受けたため、1年間（～2015年6月ごろ）を目途に事業を再開した。	【その他】
	フェーズにあわせた課題、テーマを鮮明にし分科会等を開催しながら、より地域の実態にあわせた、日頃の活動に活かされる内容を目指して実施してきたが、市が掲げるノーマライゼーションという言葉のいらぬまちづくりのアクションプラン策定にかかる議論をスタートし、毎月の議論を計画づくりにも反映させていくというプロセスを踏まえることと具現化していくという形に発展してきている。震災から4年が経過し、まち全体も住環境が大きく変化しようとしている等、次のフェーズに移りつつある。これまでは、今、目の前にある課題に向き合い続けてきた部分が大きかったが、これからこのまちをどういう方向性をもって復興させ、進んでいくべきか、誰もが目標を共有できるよう、より具体的に議論をし形にしていくことの必要性、重要性が出てきていると考える。	【医・保】 【福】 【子育て】 【子全般】 【コミュ】
2014年9月	漁業支援、仮設住宅の修繕から、地域住民との交流を目的としたイベントやバスツアーに転換。仮設修繕は、仮設住宅から災害復興住宅に移転する方が増え、せっかく修理や設置しても解体して仮設を引き渡すことになるため無駄になってしまうのでは？という意見があった。（ただし、まだ長期にわたり仮設に住む方もいるので可能な範囲で継続するつもりでいる。） イベントバスツアーは、住民の声や地元NPO団体と協議した結果、仮設の方だけでなく仮設を出た方や地域の方との交流の場づくりとして必要と感じたため。	【ボラ】 【住】 【生活】 【コミュ】 【情】
2014年10月	2年間の事業である緊急雇用創出事業として収束を図る。カフェを行っているところなどで、住民が自主性を持ちつつ自立へ移行できる場所は、当会のカフェの回数を減らすなどをした。又、連絡会通信やその特別号などで住民の心理面へのポピュレーションアプローチを積極的に行った。 変化の背景としては、当会の活動＝市の委託事業という状況の中、2年間の事業継続制限がある緊急雇用創出事業が終了を迎えること、当会の構成員である仮設住宅自治会長らが、住環境の移行等に伴い、流動的に交替していく中、役員の選出が難しく事業体として会を維持していくことが困難となる。	【情】 【その他】 【コミュ】
2015年1月	引越し応援の依頼が現地スタッフに届き、対応可能なものは対応し始めている。仮設住宅から復興公営住宅、高台移転、別の仮設住宅へ移るための引っ越しが始まり、引っ越し経験がほとんどない、高齢者宅のお手伝いが内容（軽自動車で1～2往復程度の物量、主に冷蔵庫・テレビ・洗濯機など）。期間外だが、財源確保が定まらず一時中止した事業もある。今後は頻度を減らして実施予定。	【生活】 【コミュ】 【収】 【ボラ】
	予算の縮小。団体としては被災地支援を終了し、内陸避難者支援に重点を置くことになったため。	【物】 【その他】

#### 4 支援の終了状況

対象期間内で終了した事業はない	40.5% (15 団体)
陸前高田で展開してきた活動の一部を終了 (継続している活動も有)	13.5% (5 団体)
陸前高田での事業をすべて終了し撤退 (団体としての活動は継続)	0.0% (0 団体)
団体そのものを解散	0.0% (0 団体)
その他	2.7% (1 団体)
無回答	43.2% (16 団体)



一部終了	<b>上長部地区での6次産業化支援</b>	【雇・生】
	引継ぎあり。地元の皆様での継続の形（一般社団法人）が出来たためだが、関係が終了をしているわけではないので、必要に応じての支援は継続する。	
	<b>漁業支援</b>	【ボラ】
	引き継ぎなし。牡蠣などの生産も軌道に乗り出荷も増えてきているとのことなので、「支援」としての活動は終了。今後は個人レベルで漁業体験をさせてもらったり、海産物を購入するなどの関係は続ける予定だが、団体の活動としての支援は行わないとの方針を決めた。	
	<b>支援団体間の連絡調整事業</b>	【他】
	引継ぎあり。事業開始当初から、地元団体への事業引き継ぎを計画しており、2013年度より、協働してきた事務局をはじめメンバー団体から、新たなかたちでの事業継続の約束が成立したため。	
	<b>朝市まちの日</b>	【産業】
引継ぎ有。要因は参加店舗の減少、未来商店街の朝市再編成と、大船渡盛で行われている市場への集約など。		
<b>小学校への体育備品支援、農業高校奨学金</b>	【子全般】	
引継ぎなし。事業計画上、2014年3月末での終了を掲げていたため。		



## 5 地域にもたらした変化

2014年2月	自治の正常化を求める声が増え自治会の自立につながった。健康管理やコミュニティの大切さを住民自ら大切なものと気が付いた。寄付金や支援金の整理整頓、透明化を図った、住民が自ら会議などに出向き積極的に集い合い話を行った。	【コミュ】 【住】 【窓・取】
	住民の声が「〇〇をやってほしい」から「〇〇をやりたいけどどうしたらよいか」という内容に変化。内向的思考が徐々に外にも視野を広げられるようになってきた。仮設の自治会や住民グループから、自分たちでお茶っこや交流会を行うための方法について相談が寄せられるようになり、助成金申請の手伝いやグループ運営の方法等についてアドバイスを行った。更に、住民同士の交流においても「仮設に特化せずに広く地域における交流が図れるよう工夫したい」との声もあがった。	【情】 【その他】 【コミュ】
	住宅再建に関する相談が大幅に増加した。防災集団移転促進事業や災害公営住宅の整備等の復興事業の進捗に伴い、住宅再建に関する支援制度についての相談が大幅に増えた。	【法】 【生活】 【情】
2014年4月	2014/3/31 までで、協働で事業を行っていた事務局の共同運営をおり、地元団体中心の運営に変わった。	【その他】
	『たかたび』により店が再開していることを知った方なども一定存在すると聞いている。また、商店街や店舗の方などから、欲しいと言ってもらえる機会が多くあった。	【情】 【コミュ】
	1カ所の仮設でしか活動していなかった昨年度に比べ、陸前高田市内で関わった方々からもご依頼や情報をいただけるようになった。民生委員や民宿の女将、いつも立ち寄りのお店の方などに存在を知ってもらえるようになり、個人的なご依頼や、「社協で引越しボランティアを募集している」などの情報をいただいたりもした。結果的に社協では市民ボランティアを希望していたので活動には至らなかったが、市民の方との幅広い交流ができたり、バラバラに生活している方々をつなげる手助けもできたように思う。	【ボラ】 【住】 【生活】 【コミュ】 【情】
	市内での周知が進み、学齢児童の（市内の支援学級に在籍）利用数が増大した。また、様々な支援団体とのつながりにより助成を頂戴し備品の整備や、公用車の配置が出来た。市内のみならず、岩手県の指定事業所でもあることから、近隣市からのご利用もありニーズとしてはかなり高いことがあらためてわかった。	【福】 【子育て】 【子全般】
仮設住宅での法律相談だけではなく、住民主催の高台移転協議会等の講師を依頼されるようになった。高台移転が次第に現実化するにつれ、住民側からの法律専門家の参加のニーズが高まったのに加え、弁護士（法律事務所）の存在の認知度が高まったものと思われる。	【法】	
2014年6月	学校の先生から子どもについての相談が入った。また、行政等との会議を行うようになってきた。大切な人をなくしている子どもで気になる子、また、その子が気持ちの面で少しバランスを崩した時に、相談のご連絡をいただいた。その子をプログラムにおつなぎしていただいたり、先生と職員とで連絡を取り合いながらその子や家庭をサポートした。	【子全般】 【福】
2014年7月	ノーマライゼーションという言葉の知らないまちづくりについて議論を行ったことで各関係団体だけでなく、各団体を通じて、またイベントやシンポジウム等の機会を含めて地域へも少しずつ周知が進んでいる。AIDS文化フォーラム in 陸前高田（H26.11月実施）の場でも、ノーマライゼーションという言葉の知らないまちづくりについて「ともに生きる」というテーマを掲げながら開催し、考える機会・キッカケとなった。	【医・保】 【福】 【子育て】 【子全般】 【コミュ】

2014年8月	8月の七夕まつりの事前準備と祭り参加に協力させてもらっているが、土地の嵩上げに伴い、祭り自体を継続するかどうか不明瞭になってきた。最新の情報では、祭り開催の機運が高まっているとのことなので、ぜひ今年度も参加させていただきたいと考えている。	【コミュ】 【ボラ】
2014年9月	地域のコミュニティ推進協議会と協力、連携して地域の中で地域運営、地域づくりを進めていくための仕組みづくりをするための話し合いの場が設定された。住民の感覚が住宅再建からその後の地域づくり、コミュニティづくりへと移行してきている段階であると感じる。課題が地域に移り変わる中で、今後も地域を継続していくための話し合いの場や、異なるアクター間が同じテーブルについて話し合うことの必要性が認識され始めていると感じる。	【窓・取】 【キャパ】 【場】 【情】 【その他】
2014年10月	それまでニーズがあがりにくかった個人レベルでのニーズが寄せられるようになってきた。災害ボランティアセンター閉所後のボランティア受入れ窓口として復興サポートステーションを開設したが、市民からの認知度が低く、細かなニーズを把握できずにいたが、チラシ配布等の効果で個人レベルでのニーズが寄せられるようになってきた。	【子全般】 【ボラ】 【その他】 【窓・取】 【物】
	団体の運営の仕方など様々な相談が寄せられてきて、その団体の活動方針にも係わるようになってきた。当初、漠然とした相談が多かったが、徐々に助成金の獲得の仕方、人の動かし方、団体のマネジメント、団体の将来像の相談が増えてきた。	【コミュ】 【キャパ】
	ネットワーク会議の場で、フェーズの変化を捉え、新たに「災害公営住宅移行期への取り組み」が協議されるようになった。	【その他】
2014	農業：就農体験の受入れによって働き手を提供できた。若年無業者をはじめ、企業や学生等の就農体験としてりんご農家さんへの働き手を約260名提供した。 IT：高校生が学校で同好会を設立。Web制作の授業を受けた高校生が課外活動としてWeb制作に携わり、その後自身の高校で自ら同好会を設立した。	【雇・生】
	サロン活動や食育の取り組みは社協などからも協力要請が増えてきた。	【医・保】【炊】 【コミュ】 【収】【ボラ】
2015年1月	復興公営住宅への入居が始まって以降、従来つながり（仮設、在宅）からリフレッシュツアーには元の地域から参加が続いている。同時に新たに復興公営住宅やその近隣地域とのコミュニティづくりの必要性を感じている。	【生活】 【コミュ】 【収】 【ボラ】
	地域交流会を1月から始めたことにより、改めて子どもと地域の方が交流する機会ができ、大人の方が子どもたちを知るきっかけができた。また、自治会からイベントの内容のリクエストなども出てきた。	【子全般】

## 6 連携事業

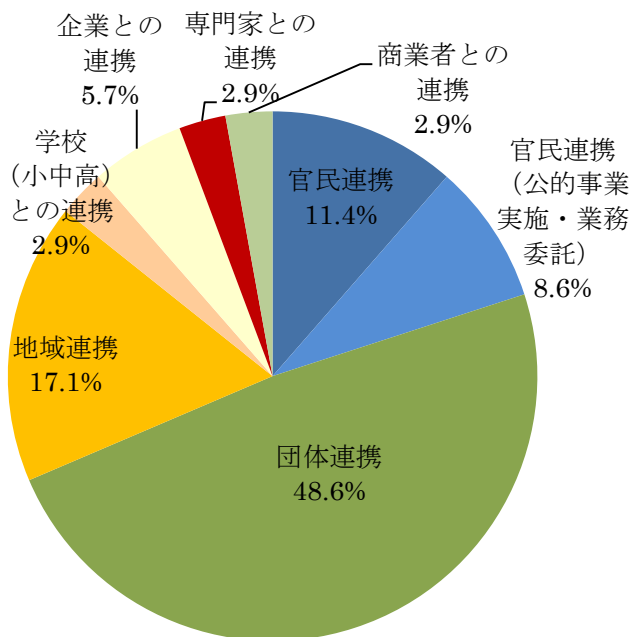
※ 事業の内容で、対象となる連携要素は複数カウントしています。

例) 団体が行政と組んでイベントを実施、専門家の参加もあった場合→官民連携・専門家との連携

専門家と組んでイベントを実施、行政の参加もあった場合→団体連携・官民連携（専門家による回答）

※2 県外の事例についても備考に記入してあります。

連携の内容	% (件数)	備考
官民連携	11.4% (4件)	・1件は専門家による回答
官民連携（公的事業実施・業務委託）	8.6% (3件)	・1件は大学による回答
団体連携	48.6% (17件)	・1件は専門家による回答 ・1件は企業による回答
地域連携	17.1% (6件)	
大学との連携	0% (0件)	
学校（小中高）との連携	2.9% (1件)	
企業との連携	5.7% (2件)	
専門家との連携	2.9% (1件)	
商業者との連携	2.9% (1件)	



<参考> 官民・団体・地域連携事例のうち、いくつかの事例の紹介

### ○官民連携

- ・移動型子どもセンター「走る! KnK 子どもセンター」の運行
- ・仮設住宅弁護士派遣業務 他

### ○団体連携

- ・ネットワーク連携事業
- ・「岩手読書週間」にあわせた「としょかんでまってるね」企画
- ・地域交流会
- ・陸前高田における若者自立支援プログラム 他

### ○地域連携

- ・地域住民交流会開催
- ・学童指導員研修 他

以上